

第四 此賣買取引ハ須カラク精確ナル手續方法ヲ以テ之レニ従事スヘシ因テ此手續方法ハ會社ニ於テ株式取引條例第二十四條以下ニ根據シ併セテ實際斟酌ヲ加ヘ詳細取極メノ上之ヲ申合規則中ニ掲載スヘシ

第五 此賣買取引ノ手續方法ハ最モ緊要ノ事ナルカ故ニ右申合規則中掲載ノ箇條ニ就テ更ニ其實質ヲ推究シ其當否ヲ審案シ取捨増損ノ上之ヲ許可スヘシ許可ノ後ハ其賣買取引上ニ於テハ一ニ右掲載ノ箇條ヲ遵守スヘキノミナラス右事件ニ付キ紛雜起ルルハ其箇條ニ基キ處分ヲ受クヘシ

〇資本金増加ノ事

第十八條

第一節 會社ニ於テ其資本金高ヲ増加セント衆議決定シタルルキハ頭取肝煎ヨリ其趣ヲ地方官へ上申シ國債頭ノ承認ヲ得テ株主等ニ増株書込ミノ事ヲ通知スヘシ而シテ株主等ハ銘ヤノ望ミニ應シテ此新規ノ増株ヲ引請ケ其手形ヲ所持スルヲ得ヘシ

第二節 若シ右株主等ノ中ニテ此増株ヲ悉皆引請ケサルルキハ頭取肝煎ハ更ニ衆議ヲ以テ此殘株處置ノ事ニ着手スヘシ



○株手形讓渡并質入ノ事

第十九條

第一節 此會社ノ株手形ハ株式取引條例ノ旨趣ニ從ヒ左ノ手續ヲ蹈ムニ於テハ之ヲ讓渡シ又ハ質入レスルコトヲ得ヘシ

第二節 株手形ヲ讓渡シ又ハ質入レセシムコトヲ欲セハ須ラク

其趣ヲ書面ニテ肝煎又ハ支配人ニ申立ツヘシ而シテ是等役員ニ於テハ兼テ備置キタル株主姓名帳ニ之レカ番號枚數等ヲ引合セ其次第ヲ逐一記載シ頭取ヘノ具狀ヲ送ケ然後其事ヲ本人ヘ通知スヘシ

但讓渡シノ節ハ必ス其手形面ノ名前ヲ書替ヘ以テ讓ラレ主ヘ渡スヘシ

第二十條

株手形ニ向ヒ會社ヨリ割渡スヘキ利益金ハ其手形面ノ名前入ニ渡スヘシ故ニ株手形讓渡シノ節若シ其名前ノ書替ヲ爲サ、リシコトアリテ右渡シ方ニ付テ何等ノ紛雜等起ルトモ會社ニ於テハ更ニ關係ナカルヘシ

○報告ノ事

第二十一條

第一節 此會社ノ報告ハ株式取引條例第三十五條ニ照準シ



夫々ノ帳簿又ハ計表ヲ造リ地方廳ヲ經國債寮へ差出ス  
ヘシ但右第三十五條第六節ノ報告ハ第三號雜形ノ通り  
ニテ更ニ左ノ旨趣ニ基キ第四號ノ雜形ニ則トリ勘定簡  
明表ヲ製シ一同之ヲ差出スヘシ

第二節 勘定簡明表ハ會社ノ所有物品并資本金額ヲ始メ金  
錢ノ遺拂利益ノ收入負債ノ多少其他凡ソ該社ノ損益得  
失ニ關涉スルモノヲシテ一目瞭然ナラシムル爲メ製定  
スルモノニシテ每年少ナットモ一度之ヲ成就シ社中一  
般へモ總會其他ニ於テ之ヲ示スヘキモノ是レナリ

○記錄ノ事

第二十二條

此會社ノ創立證書并申合規則及ヒ肝煎撰舉社中集會其他  
ニ就テノ報告議件等凡ソ此社ニ關係ノ書類ハ一切之ヲ記  
録ニ綴屬シ頭取肝煎之レニ記名調印シ以テ後日ノ證據參  
觀ニ藏置クヘシ

○會社費用ノ事

第二十三條

此會社ノ費用ハ其遺拂ノ主任ヨリ毎月又ハ每季之レカ遺  
拂明細帳ヲ製シ之ヲ頭取ニ差出シ頭取檢印ノ上又之ヲ社  
中一般へ明示スルノ手續ニ從事スヘシ



○總會ノ事

第二十四條

第一節 肝煎撰舉ヲ始メ申合規則等ヲ加除改正スル等凡ソ  
 事社中一般ニ關係シ其他重立タル事件ハ須ラソ社中ノ  
 總會ヲ待チ以テ之ヲ評議決定スヘシ尤モ右ノ手續ニテ  
 評議決定ノ上ハ時々其事件顛末ヲ詳細ニ記載シ地方廳  
 ヲ經國債寮ヘ届出ツヘシ若シ會社前段届出ノ手續ニ從  
 事スルコトヲ怠タルニ於テハ其事件ヲ以テ公然施行シタ  
 ルモノトハ見做サ、ルハシ故ニ假令右事件ニ付キ何等  
 ノ差違ノ起ルトモ斯ル箇條ヲ主張シテ公裁其他ニ從事

スルコトヲ得サルヘシ

第二節

凡ソ總會ニテ事ヲ議スルニハ須ラソ衆說ヲ採リ其  
 說ノ多キニ因リ以テ之ヲ決定スヘシ故ニ本人病氣其他  
 不得已ノ事故アリテ闕席スルキハ成丈ケ社中ノ人ニ委  
 任狀ヲ以テ其代人ヲラシムヘシ若シ此代人ヲ差出サス  
 シテ決議ノ後ニ至リ如何ナル異議アルトモ一切之ヲ申  
 立ツルコトヲ得サルモノトスヘシ

但代人委任狀ハ第五號雛形ノ通りタルヘシ

第三節

凡ソ總會ハ之ヲ定式臨時ノ二様ニ分チ其事ノ緩急  
 輕重等ヲ照ラシ以テ之ヲ此二總會ニ分付スヘシ



第四節 定式總會ハ少ナクトモ一箇年一回ハ必ス之ヲ催シ

以テ金錢并勘定帳簿ノ展閱其他ニ從事スヘシ

第五節 此外右總會ニ就テノ手續約束等凡ソ稱シテ總會規

則ト爲スヘキモノハ一ニ會社ノ便宜ニ依リ詳細ニ調査

製定シ以テ届出ツヘシ爾後ノ改正増補等は又其時々届

出ツヘシ

○検査ノ事

第二十五條

第一節 此會社ノ營業上検査ノ爲メ時トシテ國債寮又ハ地

方廳ヨリ官員ヲ派出スルヲアルヘシ

第二節 右ノ場合ニ於テハ會社ノ役員タル者須ラク勘定帳

簿其他凡百ノ書類物品ヲ此官員ノ指圖ニ任カセ夫々差

出シ又ハ其疑問アルニ付テハ一々之レニ答辨シ何レモ

猶豫抗拒等ノ舉動アルヘカラス若シ右等ノ舉動之レ有

ルニ於テハ其犯シタル役員ハ勿論検査役ノ者ヘモ二十

圓ヨリ少ナカラズ百圓ヨリ多カラサル過怠金ヲ申付ケ

各々ヲシテ之レカ出金ニ任セシムヘシ

○此創立準則改正等ノ事

第二十六條

此創立準則ハ事宜ニ依リ改正又ハ増補スルヲアルヘシ



第一號 開業免狀ノ雛形

第 一 千 一 百 一 十 一 番

大藏省國債寮

開業免狀

一 府 第 一 米 穀 相 場 會 社 ヨ リ 差 出 タ ル 創 立 證 書 ニ 據 リ  
此 會 社 ハ 明 治 七 年 十 月 日 本 政 府 ニ 於 テ 制 定 シ タ ル 株  
式 取 引 條 例 并 同 八 年 五 月 大 藏 省 布 達 第 十 六 號 米 穀 相  
場 會 社 創 立 準 則 其 他 追 ヲ ノ 布 告 布 達 ヲ 遵 奉 履 行 シ タ  
ル 一 分 明 ナ ル ニ 付 今 此 開 業 免 狀 ヲ 交 付 シ 自 今 右 條 例

其 他 ニ 從 テ 商 業 ヲ 營 ム コトヲ 許 可 ス ル モ ノ 也

右 ノ 證 據 ト シ テ 年 號 一 年 一 月 一 日 余 ハ 大 藏 卿 ノ 命

ヲ 奉 シ テ 爰 ニ 姓 名 ヲ 自 記 シ 官 印 ヲ 鈐 ス ル ナ リ

年 號 一 年 一 月 一 日

國 債 頭 名 印

官 印

第二號 創立證書ノ雛形

用紙鳥ノ子



米穀相場會社創立證書

明治七年十二月廿七日日本政府ニ於テ第三百三十八號  
ヲ以テ公布シタル旨趣ヲ遵奉シ株式取引條例並同八  
年五月大藏省布達第十六號米穀相場會社創立準則其  
他ノ布告布達ニ照準シ米穀相場會社ヲ創立シ其商業  
ヲ經營セント謀リ更ニ申合規則ヲ以テ此證書第七條  
ニ連名シタル者共協力シテ此社ヲ結ヒ左ノ創立證書  
ヲ取極メ候也

第一條

株式取引條例ノ旨趣ヲ遵奉スヘシ

第二條

株式取引條例ニ差異又遺漏アル條件ハ申合規則ノ通  
リ遵守スヘシ

第三條

此會社ノ名號ハ第一米穀相場會社ト稱スヘシ

第四條

此會社ノ永續年限ハ滿一箇年タルヘシ

第五條

此會社ノ本店ハ一府第一大區一小区一町一番地ニ取  
縣



建ツヘシ

第六條

此會社ノ資本金ハ一萬一千百圓ニシテ一圓ヲ以テ一株ト定メ總計一株トスヘシ

第七條

此會社ノ株主等ノ姓名宿所并所持ノ株數ハ左ノ表ノ如シ

株主姓名	宿所	元金株數
某	府 町 村 番地	金 一圓 株

第八條

此會社ノ株主ハ都テ内國人ニ限ルヘシ

第九條

此證書ハ株主一同ノ利益ヲ謀ル爲メ取極メタリ右ノ證據トシテ一同姓名ヲ自記シ調印致シ候也

年號 一年一月一日

株主等連名印

右第一米穀相場會社創立證書ハ本日株主共一同余カ

總計幾人	某	府 町 村 番地	金 一圓 株
			合金 一圓 株數 一



面前ニ來リ書面ノ通りニ認メタル趣ヲ正實ニ保證シ  
其證據トシテ余カ姓名ヲ記シ當廳ノ官印ヲ鈐シ候也  
年號一 年一 月一 日  
地方長官名印

地方官  
廳印

右第一米穀相場會社創立證書ノ正寫ニシテ其本紙ハ  
正ニ之ヲ當寮ニ受取り候ニ付年號一 年一 月一 日余ハ  
大藏卿ノ命ヲ奉シテ爰ニ官印ヲ鈐シ其事ヲ許可シ之

ヲ會社ヘ下付スル者也

年號一 年一 月一 日

國債頭名印

官印

用紙美濃紙

第三號 會社役員上任報告ノ雛形

府第一米穀相場會社役員印鑑届



當年號 一年一月一日 何ノ誰儀ハ當會社  
ノ頭取(又ハ)副頭取ニ撰ハレ其印鑑ハ別紙  
ノ肝煎(又ハ)検査役ニ撰ハレ其印鑑ハ別紙  
ノ通ニ候也

年號 一年一月一日  
第一米穀相場會社  
頭取名印

地方長官名宛

右二通但一通ハ國債頭名宛ノ事

(別紙)

用紙厚紙豎五寸幅一寸五分

印鑑

印

何役何ノ誰

右銘々各通ニシテ本紙二通タルヘキ事

第四號 勘定簡明表ノ雛形

會社	所有	會社	所有	會社	所有	家屋
所在場所	坪數	地券面代價	地券面代價	住家(又ハ)	問口	總建坪數
縣第   大區   小區   町   番地	幾坪	何圓何錢	何圓何錢	何軒	何問	幾坪
				何ヶ所	何問	







右之通相違無之候也

現拂	業ノ	金當
營ノ	益配	役給
利〜	社ノ	諸
會他	社	
會		

第一米穀相場會社

年號一 年一 月一 日

頭取 何ノ 誰印  
肝煎 何ノ 誰印  
検査役 何ノ 誰印

第五號 代人委任狀ノ雛形

委任狀ノ事

一月一日社中(定式又ハ臨時)總會ニ於テ何ノ誰ヲ拙者

名代トシテ發言投票爲致候依テ委任狀如件

第一米穀相場會社株主

年號一 年一 月一 日

何ノ誰印

第一米穀相場會社御中

達候事

(布達)八年六月十二日大藏省甲第十九號  
米穀相場會社ノ儀昨七年布告第百三十八號及ヒ本年當省布達甲第拾六號ヲ以テ公布候處右會社設立ノ定數其他并資本金高共豫メ權度ノ標的無之テハ實際不都合可有之ニ付左之通相定候條此旨布



一米穀相場會社設立箇所

二箇所

東京

一箇所

自餘使府縣

但會社支店設立ノ儀ハ使府縣トモ一箇所ヨリ多  
カル可カラス尤モ右出願スル會社ハ本社設立ノ  
手續ニ準シ當省ノ許可ヲ受クヘシ

一前條ノ如ク立社定數ヲ限キルニ付テハ一管内ニテ數  
社出願ノモノアラハ左ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第一 從來官許ヲ得タル商社(又ハ會所)ニシテ創立

準則發施以前ニ於テ其管轄廳ヘ先願スルモ

ノヲ主トシ其條例準則等ニ適當スルト思考  
スルニ於テハ官許ヲ與フヘシ

第二 從來官許ヲ得タル商社(又ハ會所)タリト雖モ

條例準則等ニ適當スル能ハサルキハ他ノ結  
社出願スルモノ、内先願ニシテ條例準則等  
ニ適當スルト思考スルモノヘ官許ヲ與フヘ  
シ

第三 從來官許ヲ得タル商社(又ハ會所)ニシテ準則

發施以前ニ出願スルト雖モ準則發施後五十  
日以内ニ於テ再願セスシテ右期限以後出願



スルモノハ之ヲ新願ノ部ニ加算シ此内ニテ  
條例準則等ニ適當スルト思考スル先願ノモ  
ノへ官許ヲ與フヘシ

一 資本金高ハ三萬圓ヨリ少カル可カラス

第三卷 集觀場

第一章 諸展覽

第一款 博覽會

〔壬申正月博覽會事務局太政官中ニ開キ同年八月五日幸橋  
内ニ移ス〕

〔達〕壬申四月九日博華族輩從來所持ノ物品中御國寶ニモ可  
相成分ハ追テ博覽場御取設ノ上御備ニモ可相成候條右銘  
書早々取調爲差出候様可取計事

〔參考〕布告〔辛未五月古器舊物ノ類ハ古今時勢ノ變遷制度  
風俗ノ沿革ヲ考証シ候爲メ其裨益不少候處自然厭舊競



新候流弊ヨリ追々遺失毀壞ニ及ヒ候テハ實ニ可愛惜事  
ニ候條各地方ニ於テ歴世藏貯致シ居候古器舊物類別紙  
品目ノ通り細大ヲ不論厚ク保全可致事  
但品目并ニ所藏人名委詳記載シ其官廳ヨリ差出ヘキ  
事

別紙

一 祭器ノ部

神祭ニ用ル楯矛其他諸器物等

一 古玉寶石ノ部

曲玉 管玉 瑠璃 水晶等ノ類

一 石弩雷斧ノ部

石弩 雷斧 霹靂砧 石劔 天狗ノ飯匙等

一 古鏡古鈴ノ部

古鏡 古鈴等

一 銅器ノ部

鼎 爵其他諸銅器類

一 古瓦ノ部

名物并名物ナラスト雖古キ品

一 武器ノ部

刀劔 弓矢 旌旗 甲冑 馬具 戈戟 大小銃砲



彈丸 戰鼓、唃囉等

一古書畫ノ部

名物 肖像 掛軸 卷軸 手鑑等

一古書籍并古經文ノ部

温古ノ書籍圖書及古版古寫本其他戲作ノ類ト雖モ  
中古以前ノモノニテ考古ニ屬スル者等

一扁額ノ部

神社佛閣ノ扁額并諸名家書畫ノ額等

一樂器ノ部

笛 笙 箏 大鼓 鐘鼓 羯鼓 箏 和琴 琵琶

琵琶 假面其他猿樂裝束并諸樂器歌舞ニ屬スル品

一鐘鈺碑銘墨本ノ部

名物并名物ニアラスト雖モ古キ品

一印章ノ部

古代ノ印章類

一文房諸具ノ部

机案 硯 墨 筆架 硯屏ノ類

一農具ノ部

古代ノ用品

一工匠器械ノ部



同

一 車輿ノ部

車輿 籃輿等

一 屋內諸具ノ部

房室諸具 屏障類 燈燭類 鎖鑰類 庖厨諸具

飲食器皿 煙具等

一 布帛ノ類

古金鏤并古代ノ布片等

一 衣服裝飾ノ部

官服 常服 山民ノ服 婦女服飾 櫛簪ノ類 傘

笠 雨衣 印籠 巾著 履屐ノ類

一 皮革ノ部

各種ノ皮革并古染革ノ紋圖

一 貨幣ノ部

古金銀古錢并古楮幣等

一 諸金製造器ノ部

銅 黃銅 赤銅 青銅 紫金 鍊 錫等ヲ以テ製

造セル諸器物

一 陶磁器ノ部

各國陶器磁器等



一漆器ノ部

蒔畫 青貝 堆朱等ノ諸器物

一度量權衡ノ部

秤 天平 尺 斗升 算盤等古代ノ用品

一茶器香具花器ノ部

風爐 釜 茶碗等ノ茶器 香盒 香爐等ノ香具

花瓶 花臺等ノ花器類

一遊戲具ノ部

碁 將碁 雙六 蹴鞠 八道行成 投壺 揚弓

投扇 歌骨牌等

一雛幟等偶人并兒玩ノ部

這子 天兒 雛人形 幟人形 木偶 土偶 奈良

人形等其他兒童玩弄ノ諸器

一古佛像並佛具ノ部

佛像 經筒 五具足 寶鐸等ノ古佛具

一化石ノ部

動植ノ化石并動物ノ骨角介殼ノ類

右品物ハ上ハ神代ヨリ近世ニ至ル迄和品舶齋ニ不拘

(指令)壬申四月博覽 澳國博覽會へ可差出諸物件事務局ニ

テ取集候品各府縣所産ノ物品廻越シ到著ノ上ハ狹少



ノ場所ニテハ排列點檢差支へ且將來ノ目的ハ一體國  
 産ハ天産人造新古ノ物品トモ盡ク其府下ニ集メ衆庶  
 ノ展覽ヲ許シ考證開智ニ供スヘキ儀ニ付今般澳國へ  
 差回シ物ヲ聚集シ永久開館ノ照準ニ仕度付テハ文部  
 省構内ニハ空間ノ堂舍若干有之趣適當ノ場所ニ付追  
 テ博覽館ニ可被定目的ヲ以テ差向澳國差廻物品排列  
 檢査ノ爲メ當事務局へ貸渡候様御達有之度

指月日 闕 伺之通相達候事

〔指令〕六年九月二日 博覽會事務局 同 暖塘照塘ノ儀最早取掛候ニ付向後  
 ハ總テ經伺ノ上著手可致候ヘトモ今般ノ儀ハ處分致

置追テ費用金被相渡候様

十月十日 大藏省へ達ニナル

〔指令〕七年二月十三日 博覽會事務局 上中 博來ル三月一日ヨリ日數五十日間

昨年ノ手續ヲ以テ博覽會相開候ニ付此段申上候

二月廿二日 本年三月一日ヨリ五十日間博覽會相開候

ニ付テハ構内明長屋有之商人共へ出品致サセ賣却差

許候ハ、看客ノ進歩ヲ増シ商工ノ勉勵ヲ導キ候儀ト

存候間別紙布達東京府へ申談スヘクト存候

別紙

三月一日ヨリ五十日間博覽會取設ケ諸人ニ縱觀致



サセ候右日限ノ内邸内長屋望ニ任セ商人ニ貸渡シ賣物差出シ勝手次第賣捌差許候條出品ノ儀ハ左ノ通り可心得候

一近來發明イダシ或ハ有來リノ物ヲ改革イダシ日用重寶トナルモノ或ハ是マテノ品ニ工夫ヲ加ヘ美麗ニナリタル品

一古器物

一織物類

一漆器類

一寄木細工彫物類

一植木類

一鳥類

一學問ニ關係スル品々

右ノ品々ニ限リ出品賣捌差許候

一近來發明ノモノハ其發明ノ來歴概略書取リ姓名相記シ差出申スヘキ事

右ノ通候間有志ノ者ハ山下御門内博覽會事務局へ可申出候事

二月廿八日指令別紙伺ノ趣ハ見本ニ出品ノ儀ハ不相措史官ヨリ申入ル儀ニ候ヘトモ賣買致サセ候儀ハ御聞届難相成旨ニ候

〔指令〕七年十二月三日宮内省伺 奈良縣管下東大寺大佛殿内ニ於テ來ル明治八年三月一日ヨリ五月二十日マテ八十日間博覽會取設度ニ付東大寺正倉院寶庫開封御物拜見爲致



度旨同縣參事岡部綱紀ヨリ別紙之通り願出候間差進  
申候條何分ノ御指揮相成度(別紙)

八年二月九日指合 伺之趣聞届候尤御物取扱之爲正院官員之内出張可致候條其旨可相達事

〔達〕八年三月三十日博覽會事務局博物館ト改稱自今内務省ニ被屬候條爲心得此旨相達候事

但澳國博覽會殘務相濟候迄右事務ニ限リ従前ノ通正院所屬ヲ以テ澳國博覽會事務局ノ名目ヲ存シ置博物館中ニ於テ取扱候事

〔内務省達〕八年四月二十七號今般博覽會事務局博物館ト改

稱當省所屬相成候ニ付以後各地方管下於テ博覽開場物品拜借願等總テ同館へ屬スルノ事件ハ當省へ可申立此旨爲心得相達候事

〔布達〕八年十一月十七日内務省甲第貳拾貳號今般博物館所屬淺草文庫ヲ設立シ御藏前片町三拾壹番地本邦漢土西洋ノ諸典籍ヲ蒐集シテ公私ノ借覽差許候條借覽人心得方規則左ノ通相達候條借覽望ノ者ハ同所ニ可申出此旨布達候事  
借覽人心得方規則

一 淺草文庫中諸典籍ヲ借覽望ノ者ハ男女ヲ論セス午前第八時ヨリ第四時マテ來觀ヲ許ス



- 一 來觀スル者ハ一日金壹錢ヲ借覽料トシテ收ムヘシ
- 一 三ヶ月以上借覽スル者ハ一日七厘六ヶ月以上借覽スル者ハ一日五厘ノ割合ヲ以テ借覽料目的期日マテノ金額ヲ收ムヘシ其節借覽料請取ノ證書ヲ渡スヘシ
- 一 公務ヲ以テ借覽スル者ハ其官廳ノ副書ヲ持參スヘシ借覽料ハ收ムルニ及ハス
- 一 博物本館設立迄古書畫ノ類モ當分此文庫ニ於テ借覽ヲ許ス
- 一 大祭日祝日ヲ除クノ外ハ一月八日ヨリ十二月廿八日マテ毎日來觀ヲ許ス

但臨時休ノ節ハ其旨門外へ揭示スヘシ

- 一 書籍ハ凡テ門外へ出スヲ禁ス若シ官省ノ用ニ供セシメ門外ニ出スヲ要スル時ハ更ニ副本ヲ作リテ其需ニ應スヘシ

- 一 書籍出納ハ必ス文庫中ノ規則ニ從フヘシ其他諸規則ハ官員ニ就テ審問スヘシ

- 一 借覽席ニ於テ發聲誦讀スルト雜談スルトヲ禁ス
- 但園中遊歩ハ隨意タルヘシ

- 一 借覽席ニ飲食物ヲ攜ルヲ并吸煙ヲ禁ス
- (內務省指令) 八年十月廿五日 府下博覽會賞牌ノ儀ニ付別紙



ノ該社ヨリ申出候間書面相添相伺候也

別紙

當年博覽會ノ者格別ノ御手數ヲ以諸省使藩府縣御  
應ヨリ盛大ニ御出品被成下誠ニ場中幾層ノ美觀ヲ  
増シ難有仕合奉存候就テハ甚恐縮ノ儀ニ候ハ共歐  
州ノ俗ニ擬シ盛大ニ御出品被成下候御廳ヘハ先般  
伺濟ノ賞牌拜呈仕度奉存候尤各管下出品製造人等  
ヘハ勿論賞牌差送リ可申候ヘ共右拜呈ノ儀ハ何分  
ノ御都合ニ可有御座哉萬々一不敬ノ體ニ相成候テ  
ハ不本意ノ事ニ御座候間此段奉伺候可然御指揮被

成下候様奉願候也

博覽會社幹事

竹原彌兵衛

竹久正助

明治八年十月廿四日

十二月九日  
指令書面博覽協賛ノ賞牌等各廳ヘハ差出スニ不及  
候事



第二款 外國博覽會

○英國龍動博覽會

〔布告〕庚午六月十三日 英國都府龍動ニ於テ來未年四月頃ヨリ毎年五ヶ月間博覽會有之右ハ各國商人銘々製作物品ノ精巧ヲ示シ誂品等可引受爲メニ有之候ニ付テハ府藩縣商人共親シ誂物等可引受見込モ有之自カヲ以テ其品物右會場へ差出度者ハ別紙規則書熟覽ノ上管轄府藩縣ヨリ來ル七月中外務省へ可願出候事

博覽會規則

今度初テ博覽會ヲ毎年一度ツ、常式催ス事ヲ目論見別

段ノ仕方ヲ取設ケリ就テハ博覽會掛リノ頭取並ニ各國政府トモ能々左ニ述シ條々ニ心附アリタシ博覽會ト云者ノ大ニ利益ナル事ハ世ノ人知ラサル者ナキ故ニ又茲ニ述ルモシダシダシカレヘシ只是迄仕來リノ通ニテハ各國政府及我國ノ人民共ヨリ品物差出方ニ人々ノ知レル如ク大ニ入用カ、リシ事ナレハ今餘計ノ入用ヲ省キ不都合ノ仕來リヲ取除カント別紙ノ通り規則ヲ定メリ

博覽會ニ差出ス品物ハ精々念入取調ノ上ニテ其場ニ差出スヘシ尤モ品數多ク持出ニ及サル事



製造品ノ手際ノ好悪ヲ目利スル者ヲ兼テ申付置シ故其者ノ取調ヘシ上ナラテハ博覽會ニ持出スヲ許サ、ル事初度ノ博覽會ニハ色々品物ヲ差出ヘカラス唯三色ニ限ルヘシ則瀬戸物ト毛織物羊毛ノ未タ織物ニ製シアケサルモノト學問仕附方ニ附テノ物ノミ也

博覽會ニ持出ス品主ハ右三色ノ内ノ見本一色宛差出スヘシ尤イツレモ念入製造セシモノト新工夫ノ物ナルヘシ

博覽會ノ場所ニギヤマン製ノ塵除並臺其外入用ノ雜道具類ヲ用意スルハ我政府ニテ辨ユル筈ナリ今度企ル博

覽會ノ入用並ニ諸品運込ノ入用ヲ一千八百六十二年即久三ニ開キシ博覽會入用ノ二十五分ノ一ニ減少スル爲ト各國政府並其國ノ品主ニ箱臺等ヲ新規取設ノ入用カ、ラサル爲ナリ各國頭取ヨリ出スヘキ入用ハ國產ノ取調ヲ受ル時ト其品ヲ當國ヘ送込ノ入用ノミナリ且他國ヨリ當府ヘ差置ク所ノ役所ニテロンドン府中ノ事ヲ取扱ニ差支ナシ

此會ニ持出セシ品物ノ主ニ損失無之様政府ヨリ世話人ヲ附置ヘキ事

各國トモ纏リシ一個ノ空地ヲ分配ナシ難ク唯品物ヲ分



置ヘキ場所ノミナレトモ此場所ノ外ニモ各國品主自分ノ品物ヲ博覽場ニ差出ス免許ヲ得ル事ハイギリス人同様ノ便宜ヲ得ヘシ

國々ノ風俗ト便利トヲ考ヘテ國產製造ノ手際ノ好惡ヲ目利取調ル事ハ勿論ナレトモ望ニヨリ品物取調ノ法其外博覽會ニ掛リ合シ諸事ノ見込ヲ書取リ我國博覽會頭取ニ申遣ス事差支ナキ事ナレハ他ノ國ニ於テモ速ニ役人ヲ命シ今度ノ博覽會一條ニ付萬事相談ヲ遂ケ可成丈入用ノ減少スル様相當ノ取扱ヲナサン事ヲ望ム

別紙規則書

曾テ千八百五十一年我嘉永ニ開キシ博覽會ノ頭取ハ今度諸職製造ノ品物並ニ學問所新發明ノ諸品ヲ選分テ年々博覽會ヲ開カンコトヲ目論見タリ其第一ノ會ハロンドン府サウスケンシントンニ於テ千八百七十一年五月一日我來未年三月ニ開キ同九月三十日我來未年七月三日頃ヘシ

此博覽會ハ永世不朽ノ建物ヲ造營シ其内ニ飾附場ヲ開クヘシ唯今草木養植社園ノ傍ニ於テ建築中ナリ

各國ノ製造品ノ珍數且手際好シシテ博覽場ニ差出スヘキモノハ裁判役ノ証書ヲ得テ後何國ヲ論セス場中ニ入



ルヲ免スヘシ

第一ノ博覽會ハ年即千八百七十一左ノ品物ヲ取聚テ催ス  
ヘシ各品部類毎ニ役人附置又其品物ニツキ仕方譯柄心  
得ル者モ附置ヘシ

第一之部 技藝ノ分

但實用ニ立ヘキモノ並ニ實用ニ立サルモノ共

第一 各種ノ畫類則水畫

繪具ヲ水ニ溶シ 油畫。膠畫。蠟畫。  
テ畫キシモノ

玻璃ノ畫。陶器ノ畫。切嵌細工

硝子。木。石ノ類ヲ壁ニ著セ  
テ圖畫ヲ作りシモノ

寶燒類

第二 石像及ヒ右稽古ノ雛形。蠟石。堅石。木。土燒。金族。象牙。

X二七

玻璃。寶石。及ヒ他ノ物材ヲ以テ彫刻ナシタルモノ

第三 木版圖。金版圖。石版圖。ノ類寫真畫

第四 建築方細圖畫及ヒ雛形

第五 各種織物敷物縫取ノ類及織物ニテ製シタル婦女

子ノ飾モノ笹縁等

但其製造ノ精粗ヲ見ルニ非ス其著色畫風ノ品等ヲ

論スル爲ナリ

第六 凡テ飾トスヘキ物ノ下畫

第七 太古或ハ中古時代ノ畫。切嵌細工。及ヒ陶器ニ似セ

作りシ物其外鯨腦油ヲ和シタル壁ヲ以テ美敷品ヲ似



セ作リシモノ又ハエノキテルニテ似セ作リシ物

第二之部

製造道具並ニ製作物ト未タ物ニ製シ上サルモノ共

第八 種々ノ燒物土器石細工上品ノ陶器パリアンヲ以

テ製シタル器及ヒ普請ニ用ユル燒瓦其外凡テ實用ニ

立ヘキ珍敷品物ト新工夫ノ道具並ニ之ヲ製スル仕方

第九 羊毛織物新規ニ一種ノ物ヲ發明セルカ又ハ別ニ

之ヲ製スル新法並ニ羊毛ヲ織出ス新工夫ノ道具

第十 學術教導ニツキテノ品モノ及ヒ其書其器

一學校ノ建物ニ入用ノ品並學校内ニテ用ユル器物

一書籍地圖並地球學術上ノ道具類

一兒童ノ四體ヲ運動サスル爲ニ能キ持遊物類

一技藝。生物學。究理學ノ教導ノ仕方ヲ著述セシ書畫雛形

ノ類

一各學校ニ於テ教導ヲ以テ仕上タルトコロヲ證據トス

ルモノ

第三之部 發明ノ諸品

諸製造產物ノ商賣ニツキ細密ナル規則及ヒ總表ヲ出版

スヘシ

第四之部 草木養植之術



珍奇ナル草木。菓實。野菜。花卉ノ類格別ノ養植法ヲ明ニ説示シ前ニ述ル博覽會ト同時ニ博覽場ヲ開クヘシ其規則及ヒ其他ノ書類ハ追テイギリス政府ノ草木養植社中ヨリ出版スヘシ

第二第三ノ部ニ云フ如ク凡テ物ヲ製造スル者ハ其品毎ニ一種一個ノ見本ヲ差出スヘシ但シ各品新工夫カ又ハ精巧ノ他ニ超ユル様アリタシ

品物飾附方ハ是迄ノ博覽會ニ仕來シ仕方ヲ改メ國々ニテ順序ヲ立ス唯物ノ種類ニ從テ區別ヲ定ムル事

區別ナセシ地坪ノ内三分ノ一ヲ以テ自國政府ヨリ場中

加入ノ免許證書ヲ得タル者ハ與フヘシ各國ニテ其裁判役ヲ命ジ區分地ノ内二分ハイギリス國ノ產物或ハ直ニイギリス國裁判役ノ免許ヲ得ルタメ送入來ル品物ヲ置クヘシ且場中ニ入レ難キ品物ハ沙汰次第速ニ其場所ヨリ引取ヘシ一旦場中ニ飾附ナセシ物ハ博覽會終ルマテ他所ニ運出スコトヲ許サス

諸物品ハ包マスシテ直ニ見ユル様ニナシテ相當ノ士官附添建物ノ内ニ送ルヘシ且運送等ノ諸入費ハ掛ラサルヘシ

地代ハ取立サルヘシ且硝子ヲ張タル飾臺及ヒ蒸氣並ニ



水力施車ヲ備フヘシ右等ノ入費ハ品主ニ掛ラサルヘシ  
 機械ノ外ハ其自國ノ者ニテ飾附ヘシ  
 我頭取ハ場中ノ諸品ヲ最丁寧ニ取扱ト雖モ破損紛失等  
 ハ引受サルヘシ  
 品物毎ニ直段ノ附札ヲ附ル事品主ノ勝手ナリ且都合ノ  
 爲ニ手代ヲ命シ品物ヲ取扱ハシムヘシ品物毎ニ何故ニ  
 博覽場ニ差出ス又斯々ノ新工夫或ハ格外他品ニ勝ソル  
 所以ヲ細ニ認メ附札ナシ置ヘシ  
 飾附ノ地位ヲ正フセンカ爲メ各品ノ種類ニツキ部分ナ  
 シ日ヲ定テ受取機前以テ布告スヘシ其節ニ至リテハ時

日ヲ嚴重ニイタシ誤ナキ様取扱ニ依リ外國品又ハ我國  
 産ノ差別ナク受取日限ノ後ニ持來ルモノハ決シテ場中  
 ニ入ル、ヲ免サス、  
 開場後直ニ各品ノ評論ヲ細ニ記シ千八百七十一年六月  
 第一日我來ル未四迄ニ出版スヘシ  
 博覽場中ノ諸品物ノ功益ヲ配取スルヲメ各國ニテ役人  
 ヲ命スル事勝手ナリ  
 褒賞ノ印ヲ與フル事無ト雖モ博覽場ニ入リシ事ヲ證ス  
 ル書附ヲ各品主ニ與フヘシ  
 品物ノ目錄ハ英語ニテ出版ナスト雖モ各國ニテ要用ト



思ハ、其自國ノ語ニ翻譯スル事勝手ナリ

ロイテナントコロネル

セケレタリー

ヘンリー、ワイ、デイスコット

ロンドン府オツプル、グンソングトシ、エール地

一千八百五十一年之博覽會役所ニ於テ

〔増〕達王申八月廿九日英國龍動於テ每歲興行博覽會へ御  
博覽會事務局へ英國龍動於テ每歲興行博覽會へ御  
國産御差出可相成ニ付テハ西曆千八百七十三年ノ科目  
ヲ照シ今般御取集相成候品ノ内ヲ以見計準備致置彼地  
へ差廻方可取計事

〇英國屬地オースタラリヤ洲メルボルン府博覽會

〔布告〕八年三月二十本年八月中英國屬地オースタラリヤ洲  
日第四十三號  
メルボルン府ニ於テ博覽會有之ニ付望ノ者ハ出品差許候  
條博覽會事務局へ可申出此旨布告候事

〔布達〕八年五月八日內本年第四十三號布告ニ依テ英國屬  
務省甲第九號  
地オースタラリヤ洲メルボルン府博覽會へ出品概則別  
冊ノ通相定候條此旨布達候事

第一號

出品概則



本年八月中英國屬地オーストラリア洲ウヰクトリヤ國メルボルン府ニ於テ博覽會開興ニ付人民望ノ者ヘ出品被差許候旨今般第四十三號ヲ以布告相成候ニ付テハ有志ノ者ハ出品書付ニ價ヲ付シ當局ヘ差出スヘシ然ル上諸般差圖ニ及ヒ可申事

一天產物ハ最上品ヲ選定シ人造物ノ儀ハ飽迄美良精好ヲ盡スカ或ハ彼ノ需用ニ應スルカヲ出品スヘシ然ルトイヘヒ一時一己ノ小利ヲ得ンコトヲ計リ不深切ナル品物ハ相成ス價下廉ノ品トイヘヒ手堅キ品ヲ差出可申事

但物質學術ニ益ナキモノ或ハ製作ノ粗惡ナル者ハ出品ヲ許サス亦工商人共後來引續輸出ノ目的無之品ハ差出スヘカラス

一出品人ハ本人或ハ代人持參渡航スルカ他ノ出品人ヘ依托スルニ勝手次第ノ事

但出張事務官ノ指令ヲ請フヘシ

一出品人或ハ代人ノ渡航往返旅費ハ官ヨリ給與致スヘキ事

一出品人代人トモ御國內往返旅費東京滞在入費並ニ彼地滞在中宿料食料諸雜費都テ自費タルヘキ事



- 一 出品ハ御國內外海陸運賃海上危難受合等ハ先ツ官ニテ繰替遣スヘシ品物賣捌ノ分ハ歸朝ノ上二十日間ニ還納スヘシ賣サル品持歸ルキハ往返ノ運賃海上危難受合共官ヨリ給與致スヘキ事
- 一 會場地稅列品飾箱飾臺敷布並ニ列品ニ付工匠人足等雇賃等自費タルヘキ事
- 一 御國輸出稅ハ免除彼地入稅ハ賣捌タル品ノ分ハ其品代價ノ内ヲ以可相拂賣サル品持歸ノキハ無稅ト心得ヘキ事
- 一 來ル五月十五日限り當局へ差出其品ノ審査ヲ請ヘシ

不都合無之時ハ出品ヲ可許事

但同品多數ノモノハ其中ノ一ツヲ差出スヘシ

- 一 出品外函ノ寸法ハ外法リ曲尺三尺三寸立方或ハ其半折カ四半折ニ松ノ一寸板ノ如キ丈夫ノ材ヲ以テ手堅ク仕立外面へ卷鐵ヲ致スヘシ濡濕ヲ忌ム品ハ水氣ノ潛入セサル様鐵葉亦トタン板ヲ以テ内函ヲ作り丁寧ニ鹽酸付ニ致シ封ノ離ノサル様注意致スヘキ事

但至重至大ノ物品ハ函材並ニ寸法等此限ニアラス

一天產人造物ニ限ラス其品ノ着說ヲ附スヘシ其例

一天產物見出シ人名年曆產地其數及物質用法等



一人造物新古發明人名年曆產地其數物質製法用法  
製造高沿革ノ由緣元價賣價外國輸出數等

右ノ通相心得木挽町六丁目米國博覽會事務局ニ於テ  
合併取扱候間出品望ノ者ハ同局へ申出ヘシ差出品ノ  
儀ハ昨明治七年十二月布達致シ候米國博覽會物品區  
分目錄ニ照準致ヘシ候事

明治八年五月

米國博覽會事務局

第二號

橫濱ペニンシユラル エンド フリエントタルステイ  
ーム チウイゲーシヨ コンパニー」ヨリ千八百七十

五年四月十二日

萬國博覽會理事官へ

本月十日附貴翰之返答トシテ下件ヲ報ス即當社漁船荷  
物ヲ積ミ船客ヲ乗セテ五月廿六日橫濱ヲ發シ而シテ七  
月廿七日メルボルンニ達スヘシ次便ハ六月廿三日出  
船八月廿四日到着ノ筈但シ香港ニ於テ船積シ「セーロン」  
之ポイントデカールニ於テ復タ船積ス同所ニ於テ滞在  
スルコト十日ナリ其間船客自費ヲ以テ上陸止宿ス荷物  
ハ並ミ寸四十尺立方ニシテ運賃一噸ニ付四十弗ナリ乘  
客船賃ハ一等三百六十弗二等二百十六弗ナリ埠頭鐵道



セシ處ヨリ「メルボルン」府へ達スルノ時間ハ凡ソ半時  
其費モ亦從テ少ナリ

東洋郵船會社代人拜白

本文述フル所ノ外委細ノ儀ハ當局へ尊來ノ節面叙セン

○米國サンフランシスコ博覽會

(布告)辛未四月三日當辛未六月十五日ヨリ七月十七日迄即西曆千  
八百七十一年第八月中亞米利加合衆國桑法朗西斯哥港ニ  
於テ展覽會相開候ニ付御國商民ヨリモ物産差出度輩ハ勝  
手ニ可願出候抑展覽會ノ儀ハ各國ノ物産並ニ新發明ノ器  
械類ヲ取集メ人民ノ智識ヲ擴充シ通商ノ方法ヲ裨益スル

ノ趣意ニ候間有力ノ者申合セ精々産物差送候ハ、御國産  
ノ富饒ヲ普示シ將來彼此貿易ノ道ヲ盛大ニスルノ一端ニ  
候ハハ一己ノ利益ニ拘泥セズ各勉勵シテ夫々御國産ヲ取  
集メ可差送候右展覽會發開ノ期ハ來ル六月十五日ニ付西  
千八百七十一年四月二十日西洋第六頃迄ニ荷物取揃へ輸送  
候様可致依テ其品物ノ種類大略別紙揭示候條有志ノ者ハ  
來ル四月二十日限其府藩縣管轄所へ願出身元取調請人相  
立候上同所添翰ヲ以テ各開港場へ届出勝手次第渡航候様  
可致事

但往來船賃ハ平常五分ノ三相拂可申物品運賃ノ儀ハ彼



地ニ於テ賣却不致候ハ、相拂ニ不及候事  
別紙

桑法朗西期哥展覽會へ可差送御國產物ノ大略

石炭 各種

銅鑛 各種並

麻布並

漆液

生蠟 各種

鍍銀並製

鋼類並製

油類 各種

生綿並種綿

絹生糸並

絹縫絲

竹細工並工

楮

紙類 各種

漆器ノ最上品

陶器 各種

象牙細工

水晶玉石

鑄物細工

皮革類

砂糖 各種

煙草並葉

礦石類

茶 各種

鼈甲細工

穀物 見種物

乾物 見本

菓物 見本

彫刻物

材木類 見切本

○米國費拉特費博覽會

〔布告〕第七年六月廿八日 來ル明治九年 西曆一千八百八十四年四月十九日

リ十月十九日マテノ問亞墨利加合衆國費拉特費府ニ於テ  
萬國博覽會有之ニ付御國人民望ノ者ハ出品差許候條博覽  
會事務局へ可申出此旨布告候事

但物品表ハ追テ同局ヨリ頒布スヘキ事

一五四  
〔內務省達〕乙八年五月十七日 米國博覽會事務ノ儀ハ博物館ト



ハ素ヨリ差別有之候處右博覽會ノ事務ニ付テノ往復或  
ハ博物館宛ニテ差出候向モ有之不都合候條以來米國博  
覽會ニ關スル往復ハ都テ木挽町六丁目同局ヘ向ケ可差  
出候此旨爲心得相達候事

(指令)八年十二月九日 各省寮使廳ニテ通常相用候諸旗章等  
日內務省伺

米國費府博覽會へ出品致度候間現品夫々取揃當局(博覽會事)へ回送相成候様致度尤閉會後歸朝之節ハ可及返  
付候條其筋へ御下命相成候様致度

十二月十八日 上申之趣聞届別紙之通相達候事(別紙略)

○澳國ウイソ府博覽會

(布告)壬申正月十四日第七號 澳國維納府ニ於テ來酉年中博覽會有之御

國ニ於テモ此會ニ被列候ニ付各地方物品差出方等右事務  
取扱御用掛ヨリ時々指揮ニ及候條其旨可相心得事

但委細ノ儀別紙書面ノ趣參考可致事

別紙

來酉年澳地利國維納府ニ於テ博覽會ヲ催シ同年四月開  
場同八月終局相成凡ソ同盟各國ニ於テモ此會ニ加入シ  
其國ノ天產人造品トモ差出シ學術工藝ノ進歩理世經濟  
ノ要旨ヲ著シ人生互相互易資益スル通議ヲ擴メテ益利  
用厚生ノ道ヲ盡スヲ主トス故ニ此會ニ出セル物品ノ品



位ハ宇内各國ノ公評ヲ受ケ方法ヲ著セル諸説ハ衆學士ノ討論ニ供ス是ヲ以テ天産物ノ豊饒ナルハ其國土壤風氣ノ好キヲ著スヘク人造物ノ精良ナルハ其民智慧工藝ノ妙ナルヲ徴スヘク其著述スル諸説ノ精微ナルハ其窮理學術ノ深キヲ顯スヘキニ由リ其國ノ榮譽ヲ馳セ繁昌ヲ享クヘキモ否ラサルモ其物品ノ善惡工藝ノ精粗ニヨルヘシ御國ニ於テ従前器械ノ發明ナシト雖モ人工自ラ精妙特詣ノ處ナシト云フヘカラス殊ニ生絲蠶卵紙茶紙陶器漆器等ノ製造等ニ至テハ曾テ賞譽ノ名アリ此上益精良ニ遡ラハ終ニハ東洋第一ノ物産トナリ宇内各國ト

モ之ヲ求開シテ日用ノ要品トスルニ至ラハ國ノ榮譽ヲ馳セ繁昌ヲ享クヘキハ言ヲ俟サルヘシサレハ御國民能ク此趣意ヲ體シ各物品並其説ヲ著シ名聞ヲ弘メテ國益ヲ計ル事ニ注意スヘシ

○物品差出方ノ手續

凡テ天産人造トモ何品ニ限ラス博覽會ニ出シテ各國ノ公評ヲ受ケントスルモノハ新古ニ拘ラス其品ニ差出シ人ノ名住所地名ト價トヲ記シ博覽會取扱局ニ出スヘシ

○

博覽會取扱局ニ於テハ其品物ヲ鑒定シ代價相當ナリト



極ル上ハ其品物ノ預リ切手ヲ渡シ彼地ニ持渡リ博覽ニ備ヘシ後賣拂ヘキ物品ハ其代價ニ諸入費ヲ算當シテ賣拂元代價ヲ右切手ニ引替本人ニ渡スヘシ  
 博覽ニ備ルノミニテ賣拂ハサル物品ハ彼地ニ於テ鑒定ノ上褒賞ヲ受ヘキハ其褒賞ヲ添ヘテ右切手ニ引替本人ニ渡スヘシ  
 博覽ニ備賣拂ヘキ品ニテ其代價ヲ直ニ受取度モノハ品物差出次第其代價相當ノ金高ヲ官ヨリ下渡スヘシ  
 彼國ヘノ往返船賃並御國內運送旅費等ノ入費ハ一切官ニテ給セラレ途中可成丈破損ナキ様用意ヲ萬一破損アル時ハ相當ノ金高ヲ被下ヘシ  
 差出品ノ目的ハ博覽會布告書ヲ參考スヘシ  
 博覽會取扱局ニ物品ノ見本圖稅ハ出來次第差出スヘシ  
 右ハ洋文ニ翻譯スルノ時日モ懸レハ本年六月晦日ヲ過ヘカラス

○諸說著シ方ノ手續

天產人造ニ限ラス其品アレハ必ス其方法アリ方法アレハ必其說アリ故ニ其品ヲ著スト雖モ其說ヲ著サ、レハ博覽ニ供ストモ無詮事ト云ヘシ依テ其說ヲ著スコト尤肝要トス而シテ其說ヲ著ス手續ハ左ノ件々ヲ目的トス



ヘシ

何業何品ニ寄ラス初發思ヒ創メシ人ノ名及其年代ヨリ  
 歴代種々ニ變革シ來リシ緣由ト追々發明ノ說アルヨリ  
 其業其品ノ日々精良ニ至リ古拙シテ今日巧ニ今日拙シ  
 テ古巧ナリシモノアリ其顛末ヲ著スヘシ  
 器物ノ變革古今ノ異ナルハ凡テ圖解ヲ以テ著スヘシ  
 諸製造ノ方法及ヒ製造ニ用ユル元質ノ物譬ハ漆器ヲ製  
 スルニ漆木ノ圖ヨリ其液ヲ取り之ヲ製シ之ヲ塗リ之ヲ  
 乾シ金銀蒔繪ヲ施ス方法トモ精ク述ル如ク著スヘシ  
 農業及草木培養ノ諸術凡テ前條ノ通り著スヘシ

天產人造ノ物品代價古今ノ相違ヲ著スヘシ  
 製造物品凡一年出來高昔ト今トノ相違並國用ニ供スル  
 ト外國ニ輸出スル員數ト其代價ノ高ヲモ著スヘシ  
 但天產物モ之ニ準スヘシ  
 其說ヲ著スモノ其名住所在地名トモ記シテ出スヘシ之ヲ  
 洋文ニ翻譯シテ彼地ニ頒布シ其名ヲ顯スヘシ  
 其著說ニヨリ相當ノ御手當モ被下ヘシ  
 右ノ通ニ候事

博覽會事務局

別ニ澳國博覽會ノ手續書譯  
 文一冊既往ノ付略ス



〔達〕壬申九月十日 博覽會事務局へ 澳國博覽會ニ付物品聚集並運送著述費用トモ金二十五萬圓ト被定候間右ヲ以テ可取計事

但右ノ趣大藏省へ相達候間受取方ノ儀ハ同省へ可申

談事(大藏省へ)  
達ハ略ス

〔指令〕壬申十一月廿八日 澳國博覽會へ召連候諸職工等ノ

儀ハ兼テ伺濟ノ趣モ有之物品排列方手傳等モ無之テ

ハ不相叶儀ニ付陶器織物ノ職工ヲ始メ畫工等四民ノ

中ヨリ可然者凡三十入程本局又ハ他省等へ出仕致居

候者連モ術業相當ノ者ハ當局ニテ直ニ相命可申

十一月二十 伺之通  
八日指令

〔指令〕六年一月十四日 博覽會事務局伺 澳國博覽會へ御出品之諸入費ハ往

路運送船之賃銀迄二拾五萬圓ニテ取賄可申旨先般被

仰渡英國へ出品之分迄合併都テ右定額ヲ以仕拂方略

目算相立云々今般之儀ハ各國人民輻湊シ旅宿借料諸

物價騰貴致シ候由ニ付右見込ニテハ引足申間敷哉ニ

候得共可成丈取賄申度存候間即右爲費用二拾萬圓御

下渡相成度

一月廿 澳國博覽會諸入費金之儀御用度御多端之折柄ニ

付伺面之通ニハ難被及御沙汰金拾五萬圓御下渡相成候

條精々節略致シ取賄可申尤金額受取方之儀ハ大藏省へ



可申談事

但追々精算之上仕拂帳可差出事

〔指令〕六年一月廿八日大藏省伺 澳國博覽會入費額外超過致シ候モ可

有之副總裁中立御開置ノ由右ハ岡本大丞へ御委任ノ  
條ニモ扨格致シ於本省ハ支給相成兼候上申

〔二月三日左ノ通指令〕  
ニナル段同省へ達

澳國博覽會諸入費金ノ儀先般相達候通十五萬圓ヲ以テ  
一切可取賄尤實地上ニ於テ萬一右金額ニテ不足相立難  
取賄候節ハ岡本大藏大丞ト協議ノ上可相回事

〔指令〕六年二月博覽會事務局伺 澳國博覽會要費二十五萬圓ト被定共

目的ニテ取計ヒ候處三萬五千圓不足相成ニ付大藏省  
ヨリ繰替借用致シ物品賣捌代ニテ返完致度

六月四日指令申出ノ通大藏省へ相達候條請取方同省へ可申出  
尤モ物品賣捌代金ヲ以テ返完可致事

〔指令〕六年八月三十日博覽會事務局伺 澳國博覽會要費定額金ニテハ引足  
不申尙五萬八千弗御渡シ相成度

〔九月八日上申金五萬八千弗増額ノ旨大藏省へ達〕

〔指令〕六年九月廿日博覽會事務官ノ外悉皆歸朝ノ  
御達ニ付傳習人ハ賣上代價ヲ要費トシ差置度伺御許  
可無之候へトモ最前副總裁へ御委任狀ノ旨ニヨリ既



此程傳習最中ニテ半途相止ルハ無益ニ付今一應御  
評議御採用相成度

十月四日  
指令伺之通

〔達〕七年三月十八日  
大藏省へ 澳國博覽會出品及ヒ彼地ニ於テ交換ノ  
物品等追々横濱へ回著致スヘシ候間明治六年第四十九  
號布告ノ旨モ有之候へトモ特議ヲ以無稅輸入差許候條  
博覽會事務局ヨリ申入候ハ、記號番號ヲ以テ同局へ渡  
方取計候様稅關へ可相達此旨相達候事

第二章 演技場

第一款 總テ演技場

〔布告〕壬申四月廿七日  
第百三十六號 音樂歌舞ノ類自今總テ教部省管轄被  
仰出候事

〔改〕布達 七年一月廿四日  
內務省第一號 音樂歌舞ノ事務是マテ教部省管  
轄ノ處今般當省管轄被仰出候條此旨布達候事

〔布達〕壬申八月廿三日  
教部省第十五號 能狂言ヲ始メ音曲歌舞ノ類ハ人心風  
俗ニ關係スル處不少候ニ付左ノ通各管内營業ノ者共へ可  
相達事

一能狂言以下演劇ノ類御歴代ノ皇上ヲ模倣シ上ヲ褻瀆シ



奉り候體ノ儀無之様厚注意可致事

一 演劇ノ類專ヲ勸善懲惡ヲ主トスヘシ淫風醜態ノ甚シキ

ニ流シ風俗ヲ敗リ候様ニテハ不相濟候間弊習ヲ洗除シ

漸々風化ノ一助ニ相成候様可心掛事

一 演劇其他右ニ類スル遊藝ヲ以テ渡世致シ候ヲ制外者杯

ト相唱ヘ候從來ノ弊風有之不可然儀ニ候條自今ハ身分

相應ノ行儀相慎ニ營業可致事

〔布達〕壬申九月 府下劇場ノ儀三芝居ノ外是マテ無稅興行

致シ來候處今般稅銀相定免許鑑札可相渡候條是迄興行

致シ來候者ト雖モ更ニ願出可申事

但自今免許無之者ハ興行不相成事

〔布達〕壬申十月廿一 寄セ席ニ於テ歌舞妓ニ紛敷儀ハ不相

成旨兼テ及布告置候處今般更ニ劇場其外トモ納稅相達

候ニ付テハ以來寄セ席并諸見セ物等ニテ狂言ニ紛敷踊

人形等差出候儀ハ一切不相成候若相背者於有之ハ急度

可及沙汰候條此旨相達候事

但音曲取交候儀ハ是迄ノ通可相心得事

〔指令〕壬申十一月廿 府下劇場三坐ノ外無稅ニテ興行致來

候者不少ニ付納稅假規則相設更ニ八ヶ所丈差許度

六年二月 同日 令 伺 之 通



〔司法省指令〕七年二月十免許ヲ受ケス小屋圍ヒ等ヲ取建  
相撲芝居等興行スル者ハ違式ノ輕ニ問ヒ其得ル處ノ  
財及小屋圍ヒ等ハ官沒ニ及ハス候哉

二月二十日指令同之通

○擊劍會

〔指令〕六年三月五 擊劍師範ノ者門人共集會シ竹刀試合ノ  
游觀場取設度願出聞届可然哉

三月八日指令同之趣可差許候事

〔指令〕六年六月十八 擊劍會興行ノ儀新治縣ヨリ伺書差出  
右ハ東京府ニ於テ己ニ允許モ有之同縣ニ限リ差留候

譯ニハ相成間敷トハ被存候ヘトモ縣官ノ掛念萬々尤  
ニ相聞候折柄東京府下擊劍會允許以來〔中略〕其流弊本  
業ヲ離シ游惰ノ民トナラサレハ遂ニ粗暴ノ徒トナリ  
自然風俗ニ關係可致ト存候〔中略〕當府下ヨ始メ各縣下  
トモ開場ノ儀總テ禁止被仰出可然ト存候

七月七日指令新治縣ヘ同之通可相達尤モ今後各縣ヨリ伺出候  
ハ、同様可及指令候且東京府下ノ儀ハ追テ處分可有之  
事

〔布達〕六年七月 東京府下擊劍會興行ニ相準シ各地方ニテ追  
々相行シ有之哉ニ相聞ヘ候處右ハ地方ニヨリ返テ人民實



業ノ妨碍ニ相成難聞届次第モ可有之候間總テ伺出可申此  
段相達候事

〔大藏省原伺〕略ス(趣)七月十五日出ル但シ東京府ハ御指令ノ  
布達ハ届ケ切ニテ指令ナシ又同省布達書中  
ノ番號外ニテ何日ニ布達セルヤ詳ナラス)

第二款 外國人演技

〔指令〕六年三月二十日東京府伺 淺草田島町町田仁右衛門佛人スーリ

ニ相雇淺草寺境内ニ於テ曲馬興行致度願出右ハ従前

外國人ヨリ願出候手續トモ異リ候ニ付聞届可然哉

三月二十日指令願之通



第三款 諸見セ物場

(指令) 日東京府同 十三 筋違淺草兩國等ノ往還廣場ニ於テ異形ノ見セ物自儘ニ觀場取開爲夫立賣ノ者縱橫ニ立据リ諸人飲食ノ餘其最寄一圓不潔相成ノミナラス往來ノ差障ニモ相至候儀ニ付別紙ノ通布達取締相立可申存候

六月二 日指令 同ノ趣ハ見セ物ノ類ノミニ不限晝夜トモ諸器物其他雜品ヲ路傍ニ陳列立賣致シ頗ル往來ノ差障ニ相成候類モ不少儀ニ付右等モ同様禁止ノ積ヲ以テ各其生業ヲ不失路次ノ妨害ニモ不相成様處分ノ方法著手ノ順序

見込相立更ニ可伺出事

(司法省指令) 日七年二月十 日滋賀縣同 贗造物ヲ見セ物ニ出シ人ヲ欺キ

財ヲ取ル者ハ詐欺取財ニ似タリト雖モ如此キ者ハ情ヲ量リ違式輕重ニ問ヒ其得ル所ノ財及ヒ贗造ノ物等ハ官沒シテ可然哉

二月二十 日指令 同之通







六七四

近來惡金多シ迷惑致シ候者不少ニ付御用兩替屋ヲ始其餘  
トモ不埒ノ取扱無之様可致候事

惡金吟味法

一 黒石又ハ黒碁石

右ノ石ニ擦リ付精製硝酸セウセキスイヲスレハ黄金ハ残り銀銅亞鉛  
ハ消ユルナリ又硫化加留母液ヲ用ユルモヨシ

硫化加留母液製法

硫黃

十六文目

水三十倍

ボツトアス

六十五文目

右二品ヲ土器ニ入レ又火ニカケ能奏合肝ノ色ト成是ヲ  
二百四十三文目ノ水ニ溶解ナリ

七七四

一 慶長金 小判 百兩目方四百七十六文目内

金四百〇一文  
目二百六十四文  
銀七十四文

此通貨九百〇五兩一分二朱換

一 武藏判 右同斷

一 乾字金 百兩目方二百五十目

内  
金二百七十文目  
銀三十九文目

此通貨四百七十五兩二分換

一 元祿金 小判 百兩目方四百七十六文目内

金二百七十三文  
目二百〇六十三  
銀九三七〇二文

此通貨六百三十五兩三朱換

一 享保金 小判 百兩目方四百七十六文目内

金四百六十三文  
目四百六十三文  
銀三十四文

此通貨九百三十兩一分二朱換



八七四

一古文字金小分判百兩目方三百五十目

此通貨五百二十八兩二分二朱換

內金二百三十目

一真字二分判百兩目方三百五十目

此通貨四百六十兩換

內金四百九十七文  
目銀四百五十二文

一文政金小分判右同斷

一朱金百兩目方六百目

此通貨二百二十七兩一分三朱換

內金二百七十二文  
目銀五百六十七文

一章字二分判百兩目方三百五十目

此通貨四百〇四兩二分換

內金一百七十一文  
目銀八百八十八文

九七四

一古二朱金百兩目方三百五十目

此通貨二百六十兩〇三朱換

一五兩判百兩目方八十目

此通貨三百四十二兩一分二朱換

一保字金小分判百兩目方三百目

此通貨三百九十六兩二分一朱換

一正字判小分判百兩目方二百四十目

此通貨三百十七兩一分換

一安政二分判百兩目方三百目

內	內	內	內	內
文銀六金	七銀目金	目銀三金	二銀目金	文銀六金
目二六五	四百二百	六百二百	七二七	目二六〇
三百六十八	一〇五三	七二二七	六十二五	三百六二
三四六八	九三八十六	七十六十	八四十一	三四六二
三十一	文一目	四九文	文一目	三十七



此通貨百六十一兩三朱換

一元祿大判 一枚目方四十四文目一分

此通貨六十一兩一分三朱換

一享保大判 一枚目方四十四文目一分

此通貨七十八兩一分換

一慶長大判 右同斷

一新大判 一枚=付目方三十目

此通貨二十六兩二分一朱換

一寬永濤錢 但當通用十二文代リ廿四文

天保一枚以換  
四枚ヲ以換

內 金三十一文目  
銀十六文目  
銅三六文目

內 金二十六文目  
銀十五文目  
銅七文目

內 金三十四文目  
銀七文目  
銅一文目

一同 銅錢 但當通用六文代リ十二文

同斷=付八  
枚ヲ以換

一文久銅錢 但當通用八文代リ十六文

同斷=付六  
枚ヲ以換

但シ天保百文錢ハ是迄ノ如ク通用

內國金貨幣表

一慶長小判 百兩目方四百七十六文目內

金四百〇一文  
目二百六十四文目

一武藏判 位百目 內 金八十五文目七〇八九

銀七十四文目  
七文目

一乾字一分判 百兩目方二百五十目

內 金二百八十八文目  
銀三十九文目

位百目 內 金八十五文目七〇八九

三〇



二八四

一元祿 二一分判 百兩目方四百七十七文目  
內 銀文金 目銀文金 九二目二 百〇百 七〇六 七 二 三 三

位百目 內 銀金 四十七文目 六三六 三 七

一享保小 一分判 百兩目方四百七十六文目  
內 銀目金 九〇四 百〇九 百六 三 文 目

位百目 內 銀金 八十六文目 二七八 五

一古文字 一分判 百兩目方三百五十目  
內 銀金 百一 百二十 目

一名元文

位百目 內 銀金 六十五文目 二八五 四 三

一慶長 大判 一枚目方四十四文目一分  
內 銀六金 一七 文 目 六 九

三八四

一文政 小一分判 百兩目方三百五十目  
內 銀目金 五 百 四 百 五 十 七 文 目

位百目 內 銀金 四十六文目 五九 一

一朱金 百兩目方六百目  
內 銀三金 五 二 七 百 八 十 二 文 目

位百目 內 銀金 八十二文目 〇五四 八 二

一草字 二分判 百兩目方三百五十目  
內 銀目金 八 百 一 百 七 十 一 文 目

位百目 內 銀金 四十八文目 一八八 一 八

一古 二朱金 百兩目方三百五十目  
內 銀六金 二 六 百 〇 二 文 目

位百目 內 銀金 二十九文目 〇六六 六 七



四八四

一五兩判 百兩目方百八十目

位百目 內金八十五文目七〇八九一二

內 二銀目金 七二七五 六十二五 八四十一 文目

一元祿大判 一枚目方四十四文目一分

內 六銀四銅 一七十一二 文五十六 目二二 文目

一保字小判 百兩目方三百目

位百目 內金四十六文目二七五八二

內 三銀六目 六二二七 七十六十 目〇 文

一正字小判 百兩目方二百四十目

位百目 內金四十三文目二七五八二

內 七銀四目 四〇五三 九三八六 文目

一安政二分判 百兩目方三百目

位百目 內金八十九文目〇四四五五

內 六銀二文 目二六六 三四六八 三十一 文目

當時通用

一新小判 百兩目方八十八文目

內 〇銀九金 三三六四 八十一九 七八三九 文目

當時通用

一新二分判 百兩目方百六十目

位百目 內銀七十二文目

內 二銀八目 百二十五 二十四 文目

五八四

一新大判 一枚目方三十目

內 銅銀金 三十一 文六十一 目文目



慶應四辰四月

會計局

貨幣取調方

久世治作

村田理右衛門

內國銀貨幣表

一慶長銀	位百目	內銅銀二十目
一元祿銀	位百目	內銅銀三十六文目
一寶永銀	位百目	內銅銀五十目
一永字銀	位百目	內銅銀六十目
一三寶銀	位百目	內銅銀六十八文目

一政字銀	位百目	內銅銀八十二文目
一四寶銀	位百目	內銅銀八十目
一名元文	位百目	內銅銀五十四文目
一五文字銀	位百目	內銅銀五十四文目
安永南鐐	一二朱判	一兩目方二十一文目六分
	位百目	內銅銀九十目二六
	位百目	內銅銀九十目二六
一草文字銀	位百目	內銅銀三十六文目
文化南鐐	一新二朱判	一兩目方十六文目
	位百目	內銅銀一十四文目八分
	位百目	內銅銀一十四文目二分



大形

位百目 內銀七文二分五分

一新二朱銀 一兩目方二十九文目六分

內銀五文四分六分

位百目 內銀八十一文目九分二八

文政

一一朱銀 一兩目方十一文目二分

內銀一文目四分

位百目 內銀八十二文目五分

一保字銀 位百目

內銀七十四文目

一古吹一分銀 一兩目方九文目二分

內銀九文目四分

位百目 內銀九十八文目二分四

一新吹一朱銀 一兩目方八文目

內銀七文目五分

位百目 內銀六十三文目七分五

一新吹一分銀 一兩目方九文目二分

內銀三厘七文目五分  
銅一厘一文目六分

位百目 內銀八十八文目二分八

前同斷

外國金銀貨幣表

一英國金貨 一枚價五トル 此量二文目一分二厘

內金二分目〇二厘 但十我一分銀

位百目 內金九十五文目二分八三  
銅四文目七分一七



○九四

一英國金貨 一枚價二トルトノ四分 此量一文目〇五厘

內金一文目

位百目 內金九十五文目七分六二分

但 我一分銀六枚  
二三分三朱則一兩

一西洋金貨不詳名 一枚價我一分銀十二枚此量一文目八分

內金一文目六分三厘

位百目 內金九十文目

一洋銀シメキ 一枚價我一分銀三枚 此量七文目二分

內銀六文目二分

位百目 內銀八十六文目八八一一

一英國半トル 一枚 此量三文目二分五厘

內銀二文目八分

位百目 內銀八十三文目八分五厘

一英國一トルノ四分 一枚 此量一文目四分五厘

一同一トルノ一分 一枚 此量七分五厘

內銀七分〇八毛

位百目 內銀九十四文目四分

一英國銀貨三枚換錢 一枚 此量三分九厘

一亞國銀價セソト八 一枚 此量三文目〇八厘

一佛國銀價天保錢十五枚換 一枚 此量一文目二分三厘

一九四

一佛國メリックン銀價天保錢七枚換 一枚 此量六分五厘



一佛國半トル一枚

此量三文目

内銀二分七厘

位百目 内銀九文目

一蘭國印度銀價 天保錢 一枚

此量八分四厘

一フロイゼン銀價 六十二セント一枚

此量三文目五厘

外國銅錢表

一亞國銅錢價 天保錢 一枚

此量七文目四分

一同 同天保錢 一枚

此量三文目四分

一英國同二セント一枚

此量四文目九分五厘

一同 同一セント一枚

此量七分九厘

一同 同一セントノ四分一枚

此量七分九厘

一同 同一セントノ四分一枚

此量二文目四分

一同 同一セント一枚

此量一文目一分五厘

一香港同一セント一枚

此量一文目九分五厘

都テ一セント等稱スルモノハ百枚ヲ以一洋銀ニ換

ル定位

表中起原亞國海軍方ポルテン及醫プローテユンハンニ就  
テ定ル所又彼此量價ノ小差違アル者恐クハ各國鑄造新古  
ノ別アルニ因ルナラン



洋銀一枚ト銅錢量ノ比較表

西洋銅錢	百セント	平均目方 二百五十目
我寬永銅錢	三百四十七枚 即四貫百六十四文	
同文久銅錢	二百五十枚 即四貫文	
同寬永濤錢	百九十一枚 即四貫五十八文	
江戸鑄造 同百文錢	四十四枚 即四貫四文	
大坂鑄造 同百文錢	四十五枚半 即四貫五十五文	

我一分銀三枚ト當通用銅錢ノ比較表

千五百五十二枚	凡上 段ノ	大坂製 百文錢	千ドルニ付 千〇九十
即十三貫八百廿四文	三倍 三〇枚	百五十一	七トル益
八百六十四枚	凡上 段ノ	同	同
五百七十六枚	凡上 段ノ	同	同
七貫二百文	凡上 段ノ	同	同
即七十枚	一倍半	同	同
七貫二百文	凡上 段ノ	同	同
即七十枚	一倍半	同	同

同耳白錢 二百四十五枚  
但文錢同 即二貫九百四十文

我銅錢類百枚之量數表

一寬永銅錢百枚之量	七十二文目
一文久同	百目〇〇五分
一寬永濤錢同	百三十一文目
江戸鑄造	從七百五十目
一百文錢 同	從七百五十目
大坂鑄造	從五百五十目
一同	從六十目



六九四

一耳白錢 同

百〇二文目

但文錢同位

百文錢一枚ノ量ト小錢通用ノ比較表

一寬永銅錢 改十二文 百文錢一枚ニ付八枚ヲ以換

一文久同 改十六文 同 六枚ヲ以換

一寬永濤錢 改二十四文同 四枚ヲ以換

右從來數種ノ銅錢均衡ヲ得サルカ故ニ姑ク其概畧ノ平  
量ヲ表出ス

會計局

貨幣調方

久世治作

慶應四辰年四月

XII

村田理右衛門

〔增〕布告 戊辰三月 銅錢ノ儀當時各國相場御斟酌ノ上自今

一文ヲ以鑑六文ニ通用被仰出候事 (錢相場ノ事ハ後ニ詳叙ス)

右ハ是迄其位ニ當ヲ得サルヲ以テ勳スレハ奸商トモ  
異邦へ輸出イヌン候儀モ有之依之速ニ海内ニ布告被

仰付候事

〔增〕布告 戊辰閏四月 此度字内貨幣ノ定價御吟味ノ上通用

被仰出候處諸上納ニ不相立ヤニモ相心得且又私利ヲ營

ニ多分打賃等相取候趣相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候右定價被

仰出候上ハ右金銀錢等ハ勿論洋銀等モ御定通り無疑念

七九四



取交通用可致候尤太政官諸上納并御拂等モ都テ御定ノ  
通御取扱相成候間其旨可相心得候萬一異儀申立候者於  
有之ハ屹度可被及御沙汰候事

〔布告〕五月戊辰今般貨幣定價御取調ノ上丁銀豆板銀ノ儀通用停

止被仰出候間是迄銀名ヲ以貸借有之候向ハ其引取致シ候

節ノ年月日ノ相場ニヨリテ金錢仕切ニ相改可申候

舊來ノ丁銀豆板銀共所持ノ者ハ近日御改製ノ新金錢ヲ以

テ御買上相成候間追々其筋ヨリ會計官貨幣司へ可申出者

ナリ

〔增〕布告七月戊辰一通用停止ノ丁銀豆板銀トモ御改製ノ新金

錢ヲ以テ御買上可相成旨兼テ御布告ノ御趣意モ有之候  
處未々御改製ノ場合ニ不立至候間所持ノ者ハ先可差出  
候右代リ金ノ儀ハ銀位相當ノ價ヲ以テ新金銀ニテ追々  
御下ケ可相成尤代金御下ケ有之候迄難避ノ者ハ金札  
御下ケ被置候テモ又ハ金札ニテ御買上相成候テモ路々  
望ニ任セ可申候右ノ趣相心得來ル八月五日迄ニ員數并  
ニ望ノ次第等會計官へ可申出候事

〔增〕布告十二月己巳三月通用停止ノ銀目ヲ以テ金錢ノ價ヲ定メ

候理ハ無之筈ニ候處下方ニ於テ私ニ金錢ノ相場ヲ立候

ヤニ相聞如何ノ事ニ付爾來右等ノ儀一切無之様堅ク可



〇〇五

相心得候事

〔增〕布告 戊辰十月十日兼テ古金銀歩増ノ儀御布告有之候處取引不

融通ノ趣ニ相聞候ニ付左ノ分今般引替被仰出候

一元文字金百兩ニ付

引替金四百九十一兩

一眞字二分判百兩ニ付

引替金四百二十七兩

一朱金百兩ニ付

引替金二百一十一兩

一草字二分判百兩ニ付

引替金三百七十六兩

一古二朱金百兩ニ付

引替金二百四十一兩

一五兩判百兩ニ付

引替金三百十八兩

一天保金百兩ニ付

引替金三百六十八兩

一正字金百兩ニ付

引替金二百九十五兩

一〇五

一安政二分判百兩ニ付



二〇五

引替金百四十九兩

一慶長銀

量一貫目

代金八十九兩

一元祿銀

同

代金七十一兩三朱

一寶永銀

同

代金五十五兩

一永字銀

同

代金四十四兩一分

一三ノ寶銀

同

代金三十五兩一分

一四ノ寶銀

同

代金二十一兩三分二朱

銘元文

一五文字目銀

同

代金五十一兩

一草文字銀

同

代金三十九兩三分

一保字銀

同

代金二十八兩二分二朱

三〇五



四〇五

一政字銀

同

代金十二兩三分三朱

一古二朱銀百兩

引替金百六十兩

一文政二朱銀百兩

引替金百十五兩

御一新後引替步増ノ分

一古一分銀百兩

引替金百七兩

右ノ品所持罷在候者金銀兩局并商法會所へ引替差出可申

候尤古金銀差出候日限ヨリ日數二十五日過代リ金ノ儀ハ  
定價ノ内書面ノ吹元諸雜用ヲ引被渡下候間銘々不貯置引  
替差出可申候

〔增〕布告〔己〕二月 今般新貨幣鑄造ニ付貨幣司御廢止於東京  
モ金銀坐被廢止〔抄録〕

五〇五

〔布告〕〔己〕五月 金銀貨幣ハ國ノ重寶四民賴テ生活スル所  
ニ候處近來私ニ價金ヲ鑄造シ内外ニ流通シ甚シキニ至  
テハ兩替屋私ニ相塲相立賣買致シ候者モ有之趣相聞ヘ  
以ノ外ノ事ニ候自今以後兩替屋ハ勿論商人ニ至ルマテ  
價金取扱候者於有之ハ嚴科ニ被處候間右様所業ノ者見



當リ次第無用捨取押へ其筋へ可訴出旨御沙汰候事  
〔改〕布告月辛未日新貨條例ノ内

新貨幣例目抄錄○（八年六月第百八號布告ハ後ニ出ノ改）

一新貨幣（八年貨幣）ノ稱呼ハ圓ヲ以テ起票トシ其多寡ヲ論

セス都テ圓ノ原稱ニ數字ヲ加ヘテ之ヲ計算スヘシ但シ

一圓以下ハ錢百分一ト厘十分一トヲ以テ少數ノ計算ニ

用フヘシ

一厘ヨリ以下ハ別ニ鑄造ノ貨幣ナシト雖モ若シ計算ヲ要

スレハ毛絲忽微織ヲ以テ微小ノ數ヲ算スヘシ又萬ヨリ

以上ハ十萬百萬千萬ニ至リ千萬十即チ萬十ヲ以テ一億

トシ大數ノ計算ヲ爲スヘシ

一新貨幣ト在來通用貨幣トノ價格ハ一圓ヲ以テ一兩即チ

永一貫文ニ充ツヘシ故ニ五十錢ハ二分即チ永五百文十

錢ハ一兩ノ十分一即チ永百文一錢ハ一兩ノ百分一即チ

永十文一厘ハ一兩ノ千分一即チ永一文ト相當ルヘシ但

シ二十圓十圓二十錢五錢半錢モ皆同様ノ割合タルヘシ

（八年此條ヲ除ク）

新貨幣通用制限

本位金貨幣 五圓二十圓一圓ノ中一圓金ヲ以テ原貨ト定メ

各種トモ何レノ拂方ニモ之ヲ用ヒ其高ニ制限アルヲナ



本位トハ貨幣ノ主本ニシテ他ノ準據トナルモノナリ  
故ニ通用ノ際ニ制限ヲ立ルヲ要セス尤モ一圓金ヲ以  
テ本位中ノ原貨ト定ムルトハ就中一圓金ヲ以テ本位  
ノ基本ヲ定メ他ノ四種ノ金貨モ都テ標準ヲ一圓金ニ  
取レハナリ

定位(八年補助)ノ銀貨幣 即五十錢二十錢ハ都テ補助ノ貨  
品ニシテ其一種又ハ數種ヲ併セ用フルトモ一口ノ拂方  
ニ十圓ノ高ヲ限ルヘシ  
定位(八年補助)ノ銅貨 即一錢半錢ハ都テ一口ノ拂方ニ一

圓ノ高ヲ限リ用フヘシ

定位(八年補助)トハ本位貨幣ノ補助ニシテ制度ニヨリ

テ其價位ヲ定メテ融通ヲ資シルモノナリ故ニ通用ノ  
際ニシテカ制限ヲ設ケテ交通ノ定規トス

(八年貿易銀)各開港場貿易便利ノ爲メ當分ノ内中外人  
民ノ望ニ應ジ一圓ノ銀貨ヲ(八年)一圓以下(鑄造)之ヲ實  
易銀ト爲シテ(八年)之内以下九字ヲ除(通商)ノ流融ヲ資シ  
可シ

此一圓(八年)一圓ヲ銀ハ全ク各開港場輸出入物品(八年)各  
ニ作ル其他外國人ヨリ納ムル諸税及日本人外國人ト通



商ノ取引ニ用フルノミニシテ内地ノ諸税納方等公ナル  
 拂方ニ用フヘカラサルハ勿論其他一般ノ通用ヲ得サル  
 ヘシサレトモ私ノ取引ニ付相對ノ示談ヲ以テ受取渡シ  
 イタヌ分ハ何レノ地ニテモ勝手次第タルヘシ  
 各開港場諸税受取方ニ付一圓(八年)各開以下ヲ海關稅其  
 受取方ニ付(八年)但新舊トモト本位金貨トノ價格比較  
 貿易ニ作ル銀(八年)五字ヲ註ストモト本位金貨トノ價格比較  
 ハ當分銀貨百圓ニ付本位金貨百〇一圓ノ割合タルヘシ  
 右(八年)右(八年)通用制限ハ元來貨幣ニ原本ト補助トノ別ア  
 ル所以ノ理ニ基キテ制定セシモノナレハ人々取引ノ節  
 右ノ制限ニ照準シモシコレニ越ユレハ誰ニテモ請取渡

シヲ拒ムノ道理アルヘシサレトモ私ノ取引ニ付便宜ノ  
 タメ對談ヲ以テ請取渡イタシ候儀ハ全ク相互ノ都合ニ  
 從フ筈ナレハ右制限ニ不拘勝手次第ニ交通イタシ不苦  
 候事

明治四年辛未五月 大藏省

(增)布告辛未十一月十日 新貨幣追々御發行相成候ニ付テハ新貨  
 條例ノ通相心得取交通用可致旨及布告候處新貨ヲ以テ  
 金札ト引替候節兎角多分ノ差相立不都合ノ次第モ有之  
 ヤニ相聞ヘ心得違ノ事ニ候自今屹度一圓一兩ノ當ヲ以  
 新貨金札取交聊無差支通用可致事



(增)布告 月十九日 新貨并金札ノ比較(全文ハ錢相)

(改)布告 第九十三號 明治元年閏四月中舊貨幣價格比較ノ

儀布告候處今般更ニ造幣寮ニ於テ精細分析ノ上別冊ノ通

改定ヨ來明治八年十二月迄新貨ト交換候條所持ノモノハ

各地方廳ヘ引換方可申出右期限中海關稅ヲ除クノ外租稅

其他一般ノ公納ニ相用候儀ハ不苦人民相互ノ取引ハ自今

令廢止候條此旨布告候事(八年十二月廿八日第二三號布

告ヲ以テ正誤アリ故ニ表中記スル所ハ直ニ正誤ノ文ニ據ル)

舊金銀貨幣價格表

Table area for '舊金銀貨幣價格表' (Old Gold and Silver Coin Price Table). The table content is mostly illegible due to the image quality.

今般舊金銀貨幣價格比較表ヲ製シ以テ徧ク天下ニ頒布ス

ル所以ノモノハ金銀舊貨ノ猶民間ニ散布藏匿シテ改鑄ヲ

得サルモノ少ナカラス大ニ貨幣ノ眞理ヲ失ヘル事ヲ懼レ

テナリ曩ニ戊辰ノ初メ官夙ニ貨幣取調書ヲ頒布シ廣ク世

ニ公ニスト雖モ其事皆造幣開業以前ノ舉ニ係リ一時在來

舊貨幣ノ標準ヲ立ツル迄ニテ其依ル所ノモノハ當時通用



二分判一兩ヲ以テ主本トナシ比例ヲ立テ價位ヲ定ムルモ  
 ノニシテ今日發行ノ本位貨幣ニ比スレハ其金銀純分ニ至  
 リテ稍増加アルヲ免レヌ試ミニ二分判百兩ヲ取り精製鑄  
 造スルニ其費用ヲ除キ去リ猶平均八圓内外ノ剩差ヲ生ス  
 ルヲ以テ自然其價格モ一定セス民間ノ賣買實際疑惑ヲ生  
 シ或ハ舊貨幣ヲ以テ非常高價ノモノト心得一意ニ之ヲ庫  
 中ニ藏匿シ通寶ノ利用ヲ閉チ貿易ノ能力ヲ失ハシム依テ  
 今般造幣寮ニ於テ再ヒ慶長以下大小各種ノ舊貨幣ヲ集メ  
 一切精密ニ試験分析シ各種毎ニ其品位量目ヲ詳ラカニシ  
 本位一圓金貨ヲ以テ主本トナシ各其價格ヲ定メ更ニ別冊

ノ通價格比較表ヲ製セリ就テハ自今舊貨幣ヲ儲藏スルモ  
 ノハ右比較ヲ標的トシ速ニ改鑄スヘシ如シ夫レ其身僻遠  
 ノ地ニ在ルカ又ハ其儲フル所ノモノ少數ニシテ改鑄ニ便  
 ナラサルモノ等ハ今般布告ノ旨ニ隨ヒ一切政府ノ公納ニ  
 換用シ或ハ通用貨幣ト交換シ空シク庫中ニ藏匿セシムル  
 ノ弊ヲ除キ去リ世ノ有用ヲ妨害スル勿ルヘシ猶丁銀小玉  
 銀ノ如キアリト雖モ量目品位雜駁ニシテ一定セス隨テ一  
 箇ノ價格ニ至リ各不同ヲ生シ豫メ之ヲ定メ難シ故ニ比較  
 表中ニ不掲候條一般ノ地金ト見做シ可申此旨相達候也

明治七年八月

大藏卿大隈重信



凡例

一表中ノ上段ニ各種ノ舊貨幣一個ノ價ヲ掲載スルハ凡テ舊貨幣ヲ公納シ或ハ兌換スルニ當リ爾來兩分朱ノ呼稱ヲ廢シ個數ヲ以テ算スレハナリ

一表中ノ下段ハ舊貨幣ノ量目品位及ヒ改鑄ノ費用ヲ詳明ニシ之レヲ新貨幣ト比較シ價格ノ由ツテ出ツル所ヲ瞭然タラシム

一量目ニ用フル一<sup>オンス</sup>ハ凡ツ我八匁二分八厘ニ當ル如シ新舊貨幣ノ價格ヲ計算セント欲セハ其詳カナルハ新貨幣條例ニ就キ參考スヘシ

<p>慶長 小判一個十〇圓〇六錢四二 一分判一個二圓五十一錢六〇</p> <p>武藏 小判一個十〇圓〇六錢四二 一分判一個二圓五十一錢六〇</p>	<p>慶長金小判 十兩量目五<sup>オンス</sup>七二二六二 武藏一分判</p> <p>内 金四<sup>オ</sup>八<sup>ウ</sup>八<sup>ス</sup>九<sup>リ</sup>五<sup>一</sup>四<sup>位</sup>千分中 金八五六九 銀〇<sup>オ</sup>八<sup>ウ</sup>一<sup>ス</sup>四<sup>リ</sup>〇<sup>五</sup>位千分中 銀一四二五 雜〇〇〇六</p> <p>此新貨百〇二圓五十四錢九八四 七十六錢九一二 内一圓〇三錢五九三 十〇錢二五五</p> <p>精製分析料 鑄造料 試驗鑄解料 分析料</p> <p>殘百〇〇圓六十四錢二二四</p>
<p>小判一個六圓八十六錢五七 元祿一分判一個一圓七十一錢六四 二朱判一個八十五錢八二</p>	<p>元祿金一分判 十兩量目五<sup>オンス</sup>七二二五二 二朱判</p> <p>内 金三<sup>オ</sup>三<sup>ウ</sup>二<sup>ス</sup>二<sup>リ</sup>二<sup>四</sup>二<sup>位</sup>千分中 金五六四一 銀二<sup>オ</sup>四<sup>ウ</sup>六<sup>ス</sup>七<sup>リ</sup>二<sup>四</sup>位千分中 銀四三一九 雜〇〇四〇</p> <p>此新貨六十九圓九十八錢三九一 五十二錢四八八 内七十三錢一四七 六錢九九八 殘六十八圓六十五錢七五八</p> <p>費用前ニ同</p>



乾字  
小判一個五圓十五錢六五  
一分判一個一圓廿八錢九一

享保  
小判一個十圓十一錢五六  
一分判一個二圓五十二錢八九

元文  
小判一個五圓七十五錢八九  
一分判一個一圓四十三錢九七

文政二分判一個二圓五十二錢二六

乾字金小判十兩量目三号〇〇一四二一

內金二号五〇三一八位千分中銀一六五五  
雜〇〇〇五

此新貨五十二圓五十四錢三〇八

內五十三錢一八〇  
五錢二五五  
費用前二同

殘五十一圓五十六錢四六六

享保金小判十兩量目五号六七九五二一

內金四号九二四一四位千分中銀一三二五  
雜〇〇〇五

此新貨百〇三圓〇七錢二四七

內一圓〇四錢〇三七  
十〇錢三〇七  
費用前二同

殘百〇一圓十五錢五九九

乾字  
小判一個五圓十五錢六五  
一分判一個一圓廿八錢九一

享保  
小判一個十圓十一錢五六  
一分判一個二圓五十二錢八九

元文  
小判一個五圓七十五錢八九  
一分判一個一圓四十三錢九七

文政二分判一個二圓五十二錢二六

乾字金小判十兩量目四号一九六一四

內金二号七四〇九二位千分中銀三四五三  
雜〇〇一五

此新貨五十八圓六十九錢二七四

內六十四錢〇二〇  
五錢八七〇  
費用前二同

殘五十七圓五十八錢九三三

真文元文云小判十兩量目四号一九六一四

內金二号七四〇九二位千分中銀三四五三  
雜〇〇一五

此新貨五十一圓四十四錢七二五

內三十八錢五八五  
五錢一四四  
費用前二同

殘五十〇圓四十七錢二〇三



文政 小判一個五圓〇二錢九二  
一分判一個一圓廿五錢七三

一朱金一個十六錢〇一

艸文用云 文政金小判 十兩量目四号二一五一〇

內金二号三五七九三 位千分中銀四三八六  
內銀一号八四八七四 雜〇〇二〇

此新貨五十一圓二十六錢四四八

內五十三錢六三四  
五錢一二六

費用前二同

殘五十五圓二十九錢二四〇

一朱金十兩量目七号一五〇〇〇

內金〇号八八〇一六 位千分中銀八七四〇  
內銀六号二四九一〇 雜〇〇二九

此新貨二十六圓二十六錢二六七

內二十七錢五七六  
內三十四錢二七四

二錢六二六

費用前二同

殘二十五圓六十一錢七九一

天保 小判一個四圓二十六錢六二  
一分判一個一圓〇九錢一五

文政二分判一個二圓廿二錢二七

艸文用云 文政二分判十兩量目四号二〇九五六

內金二号〇五二五八 位千分中銀五一一〇  
內銀二号一五一〇八 雜〇〇一四

此新貨四十五圓三十二錢〇二九

內三十三錢九九〇

內四十八錢〇七八

費用前二同

殘四十四圓四十五錢四二九

保字用云 天保金小判 十兩量目三号六一二二四

內金二号〇四九八九 位千分中銀四三二五  
內銀一号五五八六四 雜〇〇一〇

此新貨四十四圓五十〇錢四九四

內三十三錢三七九

內四十六錢五〇三

費用前二同

四錢四五

殘四十三圓六十六錢一六一



古二朱金一個三十六錢四五

古二朱金十兩量目四号一九八九四

內金一号二五二九六位千分中銀六九九四  
銀二号九三八八四 雜〇〇一七

此新貨二十九圓七十四錢九三四

二十二錢三一二  
內二十三錢五一六  
二錢九七五

費用前二同

殘二十九圓十六錢一三一

五兩判一枚量目一号〇八四六二

內金〇号九〇八三七位千分中銀一六〇五  
銀〇号一七四〇八 雜〇〇二〇

此新貨十九圓〇五錢九二六

十四錢二九四  
內十九錢二八二  
一錢九〇六

費用前二同

殘十八圓七十〇錢四四四

五兩判一個十八圓七十〇錢四四

安政 小判一個三圓五十〇錢五一  
一分判一個八十七錢六三

正字正云 小判 十兩量目二号八九〇一〇  
安政金一分判

內金一号六四六四九位千分中銀四二八二  
銀一号二二七五五 雜〇〇二二

此新貨三十五圓七十二錢八三五

二十六錢七九六  
內三十七錢三一五  
三錢五七三

費用前二同

殘三十五圓〇五錢一五一

安政二分判十兩量目三号六二六九八

內金〇号七五八七六位千分中銀七八八七  
銀二号八六〇六〇 雜〇〇二二

此新貨十九圓四十〇錢一二四

十四錢五五一  
內二十三錢〇六九  
一錢九四〇

費用前二同

安政二分判一個九十五錢〇三

殘十九圓〇〇五六四



<p>新小判一個一圓三十錢四三 一分判一個三十二錢六一</p>	<p>新小判十兩量目一号〇六八九四 內金〇号六二一三二四 位千分中銀四二四〇 此新貨十三圓二十九錢五二七 九錢九七一 內十三錢八七六 一錢三三二九 費用前二同 殘十三圓〇四錢三五</p>
<p>新二朱金一個十三錢六一</p>	<p>新二朱金十兩量目一号九三八二一 內金〇号四四三三八五 位千分中銀七六九〇 內銀一号四九〇四八 位千分中銀七六九〇 此新貨十一圓十一錢四六六 八錢三三六 內十三錢〇二六 一錢一一一 費用前二同 殘十〇圓八十八錢九九三</p>

<p>新二分判一個五十四錢三二</p>	<p>新二分判十兩量目一号九三六九四 內金〇号四四二五九 位千分中銀七六九五 內銀一号四九〇四七 位千分中銀七六九五 此新貨十一圓〇八錢八五三 八錢三一六 內十三錢〇〇〇 一錢一〇九 費用前二同 殘十〇圓八十六錢四二八</p>
<p>慶長 享保大判一個七十四圓七十一錢八六 天保吹增</p>	<p>慶長 享保大判一枚量目五号三二〇六七 天保吹增 內金三号五七五四九 位千分中銀二九四〇 內銀一号五六四二八 位千分中銀二九四〇 此新貨七十六圓十四錢七三九 五十七錢一一〇 內七十八錢一五三 七錢六一四 費用前二同 殘七十四圓七十一錢八六二</p>



元祿大判一個五十九圓廿七錢一〇

元祿大判一枚量目五号三〇九〇四

內金二号七六六五四位千分中銀四四八四  
雜〇三〇五

此新貨六十〇圓四十一錢九二九

內四十五錢三一四  
六十三錢四七一  
六錢〇四二

費用前二同

殘五十九圓二十七錢一〇二

新大判一枚量目三号六二九八九

內金一号二四六八七位千分中銀六三九二  
雜〇一七三

此新貨二十八圓八十二錢九八八

內二十一錢六二二  
三十一錢八〇四  
二錢八八二

費用前二同

殘二十八圓二十六錢六八〇

新大判一個廿八圓廿六錢六八

安永三朱銀一個四十〇錢二六

安永二朱銀十兩量目二十六号二四九八三

內銀二十五号六五九二位千分中銀九七七五  
雜〇二二五

此新貨三十二圓八十九錢六四二

內六十五錢七九三  
三錢二九〇  
鑄造材料  
試驗分析料

殘三十二圓二十〇錢五五九

文政二朱銀十兩量目十九号三三七二九

內銀十八号九二八七位千分中銀九七八〇  
雜〇二二〇

此新貨二十四圓二十四錢五九九

內四十八錢四九二  
二錢四二四

費用前二同

殘二十三圓七十三錢六八三

文政二朱銀一個二十九錢六七



文政一朱銀一個十〇錢三五

文政一朱銀十兩量目十三号五三二一九一

內銀十三号一八九五五位千分中 銀九七四七  
雜〇二五三

此新貨十六圓九十〇錢九六七

內 三十三錢八一九  
一錢六九一

費用前二同

殘十六圓五十五錢四五七

古一分銀十兩量目十一号一五四三五

內銀十一号〇五八四二位千分中 銀九九一四  
雜〇〇八六

此新貨十四圓十七錢七四六

內 二十八錢三五五  
一錢四一八

費用前二同

殘十三圓八十七錢九七三

三三三

一朱銀一個七錢四〇

一朱銀十兩量目九号七四五三五

內銀九号四三一五五位千分中 銀九六七八  
雜〇三三二

此新貨十二圓〇九錢一七三

內 二十四錢一八三  
一錢二〇九

費用前二同

殘十一圓八十三錢七八一

一分銀十兩量目十一号一二五〇四

內銀九号九三四六六位千分中 銀八九三〇  
雜一〇七〇

此新貨十二圓七十三錢六七四

內 二十五錢四七三  
一錢二七四

費用前二同

殘十二圓四十六錢九二七



安政、  
一朱銀一個四十六錢五一  
大形

安政  
大形一朱銀十兩量目三十五号一〇二五〇

内銀二十九号六七五七位千分中 銀八四四六  
雜一五五四

此新貨三十八圓〇〇九七〇

内七十六錢〇一九  
三錢八〇一

費用前二同

殘三十七圓二十一錢一五〇

〔増〕大藏省達〔七年九月十五  
日第九十三號 今般太政官第九十三號公布ヲ

以テ舊金銀貨幣價格比較表御頒布相成候ニ付テハ右ノ  
價格ニ基キ諸公納並交換等勝手タルヘク候處動モスレ  
ハ從來ノ風習ニ拘泥シ舊貨ノ質分何物タルヲ了知セヌ  
非常高價ノ物ト心得往々人民ノ庫中ニ埋没シ之カ爲メ

世上ノ公益ヲ妨ケ候モ之アリ或ハ新貨ニ改鑄致度モノ  
モ其身僻遠ノ地ニ住シ其手續ノ不便モ之アリ又ハ些少  
ノ金高ナルヨリ遂ニ止ヲ得ス儲蓄スルノ類モ尠カラヌ  
總テ右等ノ向キハ各地方官ニ於テ厚ク注意シ其利害得  
失懇々説諭シ無差支交換等取計ヒ可申候尤右交換ニ付  
テハ別段準備相設ケ候儀ニハ及ハス各府縣豫備金ノ内  
ヲ以テ夫々取計可申依之別紙手續書相添此旨相達候事  
但右交換ノ儀ニ付テハ專ラ人民ノ便利ヲ要シ候儀ニ  
付大數ノ分ハ其府縣ノ都合ニ依リ其趣申立候トモ差  
支之ナキ様取計可申小數ノ分ニ至リテハ眞贋見分ケ



候上ハ速ニ引換遣スヘク之カ爲メ手數ヲ厭ヒ引換ヲ拒ミ候等ノ儀之ナキ様精々注意致スヘク且亦丁銀小玉銀ノ儀ハ量目品位等雜駁ニシテ一定セス隨テ一箇ノ價格ニ至リ各不同相生シ取極メ難ク候間右價格比較表ニ記載之ナク候尤モ人民ニ於テ右丁銀所持ノ向ハ地金ト見做シ取扱候儀ハ苦シカラス候ヘトモ公納交換等へ相用候儀相成ラス候條地方官ニ於テ篤ト注意シ如シ右様ノ向之アル節ハ精々説諭ニ可及候事

舊金銀貨幣引替手續書

第一條

租稅其外諸公納ニ舊金銀貨幣相用ヒ上納候節ハ直ニ其地方廳へ差出スヘシ地方廳ニ於テハ銀行又ハ爲替方へ申付ケ納人目前ニ於テ檢査ノ上價格表ニ照シテ領收スヘシ

但右檢査並包換等ノ手數料ニ限リ地方廳ニテ豫備金ノ内ヲ以テ立替へ其上納金千分ノ一則百圓ニ付十錢ノ割ヲ以テ銀行又ハ爲換方へ下ケ渡シ其所得トナサシムヘシ

第二條

諸公納ノ外新貨ト交換致シ度望ミノ者ハ是亦地方廳へ



差出シ第一條手續ノ通り検査ノ上豫備金ノ内ヨリ繰替  
置キ引替遣スヘシ

但此手数料ハ前條ノ割合ヲ以テ持主ヨリ出サシムヘ  
シ

第三條

検査ノ上若シ贗物不正ノ舊金銀貨幣之アル節ハ撮出シ  
テ持主ヘ下ケ戻スヘシ若シ持主ヨリ精製分析ヲ願フト  
キハ造幣規則ニ從テ造幣寮ヘ差出サスヘシ

第四條

若シ一時ニ多數交換申出豫備金ノ内ニテ引換差支候節

ハ其趣大藏省ヘ申立速ニ引替方取扱ヘシ

第五條

地方廳ニ於テ領收セシ舊金銀貨幣ハ諸公納ノ分ト雖モ  
豫備金ニテ繰替普通ノ貨幣ヲ以テ成規ノ通上納致シ追  
テ諸公納ノ分交換ノ分トヲ區別シ明細帳ヲ以テ毎三ケ  
月ニ東京府外二十六縣ハ東京第一國立銀行京都府外一  
府三十四縣ハ大坂出張支店ヘ送致スヘシ

但送致ノ期限並部分概別スト雖モ若シ期限内餘分ノ  
金高ニ至リ候節ハ臨時相納メ且府縣ノ都合ニ依リ東  
京大坂何ノニテモ時宜次第送致方取計フヘキ事



東京第一國立銀行へ送致ノ部

- |             |      |     |     |     |
|-------------|------|-----|-----|-----|
| 東京府         | 神奈川縣 | 新潟縣 | 埼玉縣 | 茨城縣 |
| 足柄縣         | 千葉縣  | 新治縣 | 熊谷縣 | 椽木縣 |
| 濱松縣         | 静岡縣  | 山梨縣 | 筑摩縣 | 長野縣 |
| 宮城縣         | 福島縣  | 磐前縣 | 山形縣 | 置賜縣 |
| 岩手縣         | 青森縣  | 若松縣 | 水澤縣 | 酒田縣 |
| 秋田縣         | 相川縣  |     |     |     |
| 大坂出張支店へ送致ノ部 |      |     |     |     |
| 京都府         | 大坂府  | 兵庫縣 | 長崎縣 | 奈良縣 |
| 堺縣          | 三重縣  | 度會縣 | 愛知縣 | 滋賀縣 |

第六條

送致ノ後若シ不足或ハ贖物不正ノ舊金銀貨幣混入セル  
 アレハ銀行又ハ爲替方ニ於テ辨納セシムル儀ト可相心得事

- |      |     |     |     |      |
|------|-----|-----|-----|------|
| 岐阜縣  | 敦賀縣 | 石川縣 | 新川縣 | 豐岡縣  |
| 鳥取縣  | 島根縣 | 濱田縣 | 飾磨縣 | 北條縣  |
| 岡山縣  | 小田縣 | 廣島縣 | 山口縣 | 和歌山縣 |
| 名東縣  | 高知縣 | 愛媛縣 | 福岡縣 | 三潁縣  |
| 小倉縣  | 大分縣 | 佐賀縣 | 白川縣 | 宮崎縣  |
| 鹿兒島縣 |     |     |     |      |



第七條

右第一條手數料第二條第五條繰替金其他送致ノ入費等都テ豫備金ノ内ニテ立替置キ明細帳ヲ以テ大藏省へ申立別途之ヲ請取ヘシ

但送致ノ入費ハ可成丈ク減少ノ方法ヲ以テ運輸方取計ヘキ事

〔増〕布達 七年十月三十日 舊金銀貨幣交換等ノ儀太政官第九拾三號布告ノ通各地方廳へ引替方可申出處所持人ノ都合ニ寄東京大坂第一國立銀行へ申出引換不苦候此旨布達候事

但手數料ノ儀ハ百圓ニ付十錢ノ割ヲ以引換人ヨリ可差出事

〔増〕布告 八年十二月廿八日 舊貨幣價格比較改定ニ付テハ本年十二月マテ新貨ト交換可致旨明治七年九月第九拾三號ヲ以布告候處詮議ノ次第有之更ニ明治九年十二月マテ延期セシメ候條交換並公納等最前布告ノ通可相心得此旨布告候事

〔大藏省達〕八年三月廿三日 太政官明治七年第九拾三號布告相成候舊貨幣價格表面一個ノ價毛絲ノ位ヲ附シ有之候高一個毎四捨五入ノ法ヲ以厘位ニ止メ公納或ハ交換



取計可申此旨相達候事

八年二月廿四日大藏省原伺古金銀價格御改正相成候表面毛絲位ヲ附シ有之候ハ全ク精製分析ノ實際ヨリ出候儀ニ候得共方今許多ノ種類ヲ日々出入シ同種合員毛絲位ヲ取捨候テハ到底多少ノ差異ヲ生シ計算上不都合ノ儀モ有之且兼テ金銀出納ハ渾テ厘位ニ止メ候趣意ニ付政府人民ノ間格別損益モ無之候間古金銀價格表面一個毎四捨五入ノ法方ヲ以テ厘位ニ止メ公納或ハ交換爲致候方可然依テ府縣へ達案添此段相伺候也

三月十三日指令 伺之趣聞届候事

(改)布告(八年六月廿五日第八號)新貨條例ノ儀明治五年五月頒布ノ後追

々貨幣圖面寸法ノ改正規則例目ノ刪補等有之候ニ付本年四月第六拾貳號布告(造幣規則)但書ノ通今般改刻更ニ貨幣條例ト相改候條此旨布告候事(七月二日大藏省乙第九十三號)達ヲ以テ各地書肆ニテ發賣ス

但明治六年八月第三百八號布告銅貨圖面同七年三月第三拾四號布告壹圓銀圖面本年二月第三拾五號布告貿易銀圖面共表裏ノ唱へ反對イタシ居候ニ付今般改正候事

一四五 別冊(略ス)○(改正ノ文ハ上ノ辛未五)月新貨條例中ニ注明ス



○磨損金銀引換

〔增〕布告〔壬申十一月十八日〕是迄成貨包紙ノ糊銀ニ觸レ酸化シテ鏽ヲ生シ往々見苦敷貨幣有之或ハ貨幣ノ端ニ割目等有之響キ悪キ分ハ人々疑ヲ抱キ流通不便ノ趣相聞ヘ候間向來右様流通不便ノ定位銀貨ハ造幣寮並東京大坂國立銀行へ持參次第正否相改贖品ニ無之分ハ引替可遣候條此段相達候事（磨損ノ金銀ヲ造幣寮ニテ受取ル）

〔增〕布達〔八年三月九日〕大藏省甲第六號 磨損金銀貨幣再鑄ノ儀ハ貨幣條例中造幣規則第拾三條ニ掲載シ鏽或ハ割目等ニテ流通不便ノ定位貨幣引換ノ儀ハ太政官壬申第三百五拾三號

第一條

ヲ以公布ノ旨モ有之候處猶一層人民便利ノ爲メ火災等ニテ焚燒シ流通不便ノ金銀貨幣ヲモ相當手數料ヲ定メ東京大坂ハ第一國立銀行其他府縣ハ銀行又ハ爲換方等其地方便宜ノ場所ニ於テ引換可遣候條此旨布達候事

〔大藏省達〕乙八年三月九日 流通不便ノ金銀貨幣交換手續書別冊相渡候條地方應便宜ニ任セ銀行或ハ爲換方等へ申付右手續書ニ準據シ交換可取計候此旨相達候事

流通不便金銀貨幣交換手續書

流通不便ノ貨幣ヲ分テ磨損焚燒鏽破目音響惡シキノ五



種トス今之ヲ左ニ類別シテ其概畧ヲ示ス

第二條

磨損ハ年月ヲ經タルカ爲メ交通ノ間自然ニ摺レ損シタルモノニシテ故意磨擦スルモノヲ云フニ非ス

但故意磨擦セルハ勿論自然ノ磨損ト雖モ極印ヲモ見定メ難キ程ノ分ハ地金ト見做シ交換セザルヘシ

第三條

焚燒ハ火災又ハ誤テ火中ニ落シ入レ其全形ハ存スレ共本色ヲ失ヒ交通シ難キヲ云フ

但燒爛シテ形ヲ失ヒ或ハ之カ爲メ極印見定メ難キカ

五二四

又ハ數個一併ニ燒爛シテ塊トナレルハ假令半面ニ貨幣ノ全形ヲ存スル共總テ地金ト見做シ交換セサルヘシ

第四條

鑄ハ包紙ノ糊貨幣ニ觸ル、カ又ハ濕氣ニ觸ル、カ爲メ酸化シテ生スル者ニシテ稀ニハ銀貨幣中ニアレトモ至テ少ナシ

第五條

貨幣中破目アリ又ハ音響惡シキハ一時檢査ノ届カサルモノヲ偶然發行シタルモ測リ難シト雖モ是亦至テ少シ



且發行中誤テ堅重物ニ壓觸シ破瑾セシ貨幣モ亦此部ニ屬ス

第六條

以上四ヶ條中ニ屬スル貨幣ヲ以テ交換ヲ申出ル時ハ先其貨幣ノ種類ヲ分テ本位金貨貿易銀貨ハ第七條第八條ニ據リ補助銀貨ハ第九條ニ據リ交換ヲ爲スヘシ

第七條

本位金貨貿易銀貨ノ第二條第三條ニ屬スルモノヲ交換スルハ可成精密ナル秤量器ヲ以之ヲ掛改メ左ノ算則比例ニ據リ其重量ノ内ヨリ再鑄費用ヲ引去リ殘ル所ノ量

目ヲ貨幣ニ積リ之ヲ所持人ニ附與スヘシ

但右檢査其他手數料トシテ交換高千分ノ一則百圓ニ付十錢ノ割ヲ以別段持主ヨリ出サシメ銀行又ハ爲換方ノ所得トナスヘシ

○算則比例

一 磨損或五圓金壹枚 壹圓貳圓拾圓貳拾圓何レモ同例トス

此量貳匁貳分壹厘

但五圓金壹枚定量貳匁貳分壹厘八毛三五ナリ今假ニ其内八毛三五ハ磨損焚燒ノ爲メ減却セルト見做ス實地ニ於テハ多少減量アルヘシ

内

壹厘壹毛〇五

千分ノ五再鑄費用

殘量貳匁壹分九厘八毛九五



此通貨四圓九拾五錢六厘

但壹圓金定量四分四厘三毛六七ヲ以テ殘量ヲ除シ厘以下ハ四拾五入スヘシ

一 磨損或ハ焚燒

貿易壹圓銀壹枚

改正增量貿易銀モ同例トス

此量七匁壹分七厘六毛

但定量ヨリ減却セサルモノト見做ス實地ニ於テハ多少減量アルヘシ

内

七厘壹毛七六

千分ノ十再鑄費用

殘量七匁壹分〇四毛貳四

此通貨九拾八錢壹厘

但改正增量貿易銀定量七匁貳分四厘五毛ヲ以殘量ヲ除ス

第八條

本位金貨貿易銀貨ノ第四條第五條ニ屬スルモノハ  
第三條ノ類ニ壹枚ヲ以テ壹枚ト交換シ再鑄費用等受取ラ  
アラサレハ壹枚ヲ以テ壹枚ト交換シ再鑄費用等受取ラ

サルヘシ

但右檢査其他手數料ハ第七條ト同様タルヘシ

第九條

補助銀貨 五拾錢 貳拾錢  
拾錢 五錢  
ノ第二條ヨリ第五條ニ屬セルモノハ壹枚ヲ以テ壹枚ニ交換シ再鑄費用等受取ラサルヘシ

但右檢査手數料ハ第七條ト同様タルヘシト雖モ交換高壹圓以下ハ都テ一厘ノ手數料トス

第十條

地方廳ニテ交換セシ前文四ヶ條ノ貨幣ハ明細帳ヲ添ヘ



毎年六月東京國債寮へ送致スヘシ尤東京大坂ハ第一國立銀行ヨリ其時十國債寮へ差出シ代リ金ヲ受取ルヘシ

第十一條

右交換元金及ヒ送致ノ入費ハ都テ豫備金ニテ立替置キ明細帳當省へ差出シ別途受取方申立ヘシ

明治八年三月

大藏省

〔大藏省達〕八年十月八日乙 舊金銀貨幣引換方ノ儀ハ昨七年九月當省第九拾三號ヲ以相達置候處右貨幣中磨損或ハ燒爛等ノ分ハ交換上納ニ難相立筋ニ候得共今般更ニ人民便利ノ爲メ磨損或ハ燒爛ノ舊貨幣贖造ニ無之分ハ其

量目ヲ秤量シ舊金銀貨幣價格表ノ割合ニ比較シノ價格表類目ト殘何圓ノ通貨トヲ率ニシ種其現物ニ應スル價格ヲ立買上方取計可申候尤買上高取纏メ現物ノ儘出納寮へ假納致シ同寮於テ量目品位相改候上假受取證書交付可致候條右ヲ以本納ニ相立可申候買上代金ノ儀ハ豫備金ノ内ヲ以繰替置追テ受取方申出次第別途可下渡候此旨相達候事

但本文買上方ノ儀ハ各管下人民へモ夫々告示可致候事

〇錢相場



〔布告〕戊辰十月御一新後萬國貨幣ノ鈞合ヲ以テ並錢始浪錢等夫々直増通行御定被仰出候處其國所ニ於テ心得違ノ者トモ十二文通行ノ處或ハ六文或ハ八文位ニ取引渡シ其ニ準シ浪錢等ニ至ル迄御定通ニ通用不致趣相聞ヘ以ノ外ノ事ニ候元來貨幣ノ儀ハ僻地遐陬ニ至ルマテ不一樣候テハ不相濟事ニ付先達テ金札通用向ニ付テモ嚴重被仰出候通府藩縣ニ於テ嚴重ニ取調天下一圓定額ノ通り通用可致様御沙汰候事

〔布達〕己巳三月文久錢十六文通用ノ儀兼テ御布令有之候處近來間々通用差支候ヨリシテ自然物價ニモ相拘リ下方難

溢致シ候由甚以如何ノ事ニ候以來下方ニ於テ異儀申立通用差障候者於有之ハ屹度可被相答候條此旨府藩縣ヨリ洽シ配下ノ者共ニ嚴重相達候様御沙汰候事

〔布告〕己巳七月天下一般錢相場金壹兩ニ付十貫文ニ御定相成候間此旨相達候事

〔增〕布告己巳九月錢相場ノ儀金壹兩ニ付十貫文通用可致旨先般御布告相成候就テハ兩替屋共ニ於テ心得違有之間敷管ノ處當節ニ至リ相場並ニ諸錢ノ定位等區々ニ相成融通甚差支殊ニ真鍮錢ハ直増可相成坏跡形モナキ虛說申觸シ私ノ相場相立密ニ賣買又ハ貯錢等致シ候者有



之由以ノ外不埒ノ事ニ付既ニ此度右體ノ輩召捕吟味ノ  
上御處置ノ品モ有之候條向後錢融通方ノ儀兩替屋共ハ  
不及謂諸商人トモ一同御布令ノ旨相守リ銘々心得違無  
之樣可致事

但地方官ノ見計ヲ以テ一時融通ノ爲メ兩替屋渡世ノ  
者ニ無之トモ當分ノ内勝手ニ錢引替差許候儀ハ不苦  
候事

〔改〕布告〔庚午七月〕金一兩ニ付錢十貫文通用ノ儀兼テ御布告  
相成有之候處京攝ノ間追々錢貨潤澤ニ相成候ヨリ自然錢  
下落ノ姿ニ相成十貫文ニテハ下方通用差支候趣ニ付當分

時相場ヲ以可致通用事

但相場通用相成候へ共錢拂底杯申立十貫文ヨリ以內へ  
引上候樣ノ儀ハ決テ不相成候事

〔增〕布達〔辛未五月〕三陸錢相場ノ儀是迄金一兩ニ付錢十一  
貫ノ處向後時相場ヲ以通用可致事

〔改〕布告〔辛未十二月〕舊銅貨ノ儀去ル辰年定價被仰出候處今般  
新貨幣御發行ニ付各種比較商量ノ上當分左ノ通品位被相  
定候條其旨相心得新貨幣並金札共取交聊無差支通用可致

事

新貨並金札ノ比較



七五五

錢 半 釐 壹	錢 釐 二	錢
<p>波錢ニテ元 四文錢ナリ</p> <p>錢形(略ス)</p> <p>十枚ヲ以テ 一錢半トス</p>	<p>青波錢ト唱ヘ 元四文錢ナリ</p> <p>錢形(略ス)</p> <p>十枚ヲ以テ 二錢トス</p>	
<p>五錢ニ換ル</p> <p>ニ換ル百六十七枚ヲ以テ二十</p> <p>ル三百三十四枚ヲ以テ五十錢</p> <p>六百六十七枚ヲ以テ一圓ニ換</p>	<p>ル</p> <p>二十五枚ヲ以テ二十五錢ニ換</p> <p>五十枚ヲ以テ五十錢ニ換ル百</p> <p>五百枚ヲ以テ一圓ニ換ル二百</p>	<p>但十二錢半六錢二釐五モ右 ノ割合タルヘシ以下同斷</p>

六五五

新貨一圓	金札一兩ニ當ル
新貨五十錢	金札二分ニ當ル
新貨二十五錢	金札一分ニ當ル
新貨十二錢半	金札二朱ニ當ル
新貨六錢二厘五	金札一朱ニ當ル

舊銅貨品位

釐 八	釐
<p>十枚ヲ以テ 八錢トス</p> <p>錢形(略ス)</p>	<p>百二十五枚ヲ以テ一圓ニ換ル</p> <p>六十二枚ト二釐錢二枚ヲ以テ</p> <p>五十錢ニ換ル三十一枚ト二釐</p> <p>錢一枚ヲ以テ二十五錢ニ換ル</p>



錢	釐	壹
耳白錢或ハ其外ト モ元一文錢ナリ	錢形(略ス)	十枚ヲ以テ 一錢トス
		千枚ヲ以テ一圓ニ換ル五百枚 ヲ以テ五十錢ニ換ル二百五十 枚ヲ以テ二十五錢ニ換ル

右ハ本位ノ新貨幣ト新銅貨トノ比例ニヨリテ定ムルカ故  
ニ一種又ハ數種ヲ併セ用ユルトモ一口ノ取遣リ一圓ノ高  
ヲ限リ用ユヘシ

但一圓ノ高ヲ越レハ是ヲ拒ムノ權アルヘシ尤相互ノ便  
宜ニ依テ取遣リスル時ハ右制限ニ不拘勝手タルヘシ

右ノ通相定候事

(增)布達 壬申三月十五日大 今般舊銅貨品位御改定ニ付テ  
藏省第四十二號

ハ一般丁錢ヲ以テ勘定可致處宿驛人馬賃錢等間々九六  
錢ヲ以テ取扱候向モ有之趣相聞ヘ不都合ノ事ニ候以來  
都テ丁錢ヲ以テ請拂候様可致事

(增)布告 壬申九月廿四日 新貨幣御發行ニ付去辛未十二月  
第二十八十三號  
中舊銅貨ノ定價被仰出候處猶今般舊錢ノ價位當分左  
ノ通り被相定候條其旨相心得新貨幣並金札共取交聊無  
差支可致通用事



舊鑄錢價位

精鑄錢ト唱ヘ  
元四文錢ナリ

錢形(略ス)

鑄錢ト唱ヘ元  
壹文錢ナリ

四千枚ヲ以テ新貨五十錢ニ換ル	八千枚ヲ以テ新貨五十錢ニ換ル
千六百枚ヲ以テ新貨二十錢ニ換ル	三千二百枚ヲ以テ新貨二十錢ニ換ル
八百枚ヲ以テ新貨十錢ニ換ル	千六百枚ヲ以テ新貨十錢ニ換ル
四百枚ヲ以テ新貨五錢ニ換ル	
八十枚ヲ以テ新貨一錢ニ換ル	
八枚ヲ以テ新貨一釐ニ換ル	

×二五

錢形(略ス)

八百枚ヲ以テ新貨五十錢ニ換ル
百六十枚ヲ以テ新貨一錢ニ換ル
十六枚ヲ以テ新貨一釐ニ換ル

右ハ新貨幣トノ比較ニヨリテ之ヲ定ム尤モ鑄錢一種或  
ハ兩種ヲ併セ用フルトモ一口ノ取遣リニ新貨五十錢ノ  
高ヲ限リ用フヘシ

但新貨五十錢ノ高ヲ越レハコレヲ拒ムノ權アルヘシ  
然レトモ相互ノ便宜ニヨリテ取遣リスル時ハ右制限  
ニ拘ハラス勝手タルヘシ



右ノ通相定候事

(増布告)七年三月廿二日第三十五號 今般銅貨幣發行候ニ付テハ舊銅貨品位歩合有之候趣申唱へ不融通ヲ醸成候由相聞候右ハ明治四年辛未十二月中布告候通舊銅貨品位一定有之上ハ右品位ニ比較シ聊無差支一般取引可致ハ勿論ノ儀ニ候處右等歩合申唱へ候段以ノ外ノ事ニ候條心得違無之様可致候此旨布告候事

(司法省指令)七年四月京近頃京攝間ノ商人共煩リニ舊銅貨ヲ買締メ又ハ私ニ相場ヲ立テ賣買致スニ付銅貨拂底諸人難澁ノ趣相聞候右ハ追々御布令モ有之且太政

官本年第三十五號御布告ニ依リ即今右所業ニ及候者偵索勾問中ニ候處右誤犯人ハ違令ニ問擬シ處斷致シ候儀ハ勿論ノト存シ候ヘトモ其賣買スル所ノ銅貨金圓ハ花利ヲ追シテ官ニ没シ原貨ハ事主ニ還付致シ候儀ヤ又ハ給没贓物條ニ照シ取與俱ニ罪アル脏ト看做シ都テ官ニ没入致シ候儀哉

追伸

本文犯罪者ノ因テ生スル所以ノ者ハ今般新銅貨御鑄造御發行ニ付商人共新舊品位ヲ比較シ舊銅貨ノ量目新銅貨ヨリ重キヲ幾ント三倍セルヲ以テ各自



貯蓄シ又ハ私ノ抵價ヲ立テ賣買致ス儀ト被存候特  
 ニ今般太政官本年第三十三號ノ御布告ニハ銅貨海  
 外へ輸出御差許シニ付テハ滋々右等ノ所爲ニ及フ  
 者不尠ト相察シ候元來貨幣公債書等ノ類並ニ諸物  
 價ノ騰低スルハ品物ノ精粗輕重ニ因リテ一定ノ低  
 價ナシ多クハ是自然ノ勢ヒニ出テ人力ノ不及トコ  
 口政府モ亦敢テコレヲ壓制スルヲ不得儀ト存候  
 權外ノ儀ニハ候ヘトモ新舊品位御比較速ニ均等ノ  
 抵價ニ御改正不相成テハ啻ニ犯罪者ノ多ク出來ス  
 ルノミナラス銅貨拂底ニ相成衆庶難澁可致ト杞憂

ノ至ニ候間此段宜シク御高議ヲ仰キ候也  
 四月廿日 犯人ハ伺之通達令ニ問フ可シ花利ヲ追シ原貨ヲ  
 還付スル限ニ在ラス

追伸ハ政府ニ獻議スヘシ

○洋銀相場(本則ハ各國條約中ニ)

(布告) 戊辰今度御一新ノ折柄外國ノ御交際モ近々被爲在之  
 儀ニ付テハ指向爲融通洋銀一枚ニ付金三分ノ當リヲ以無  
 差支交遣ヒ可致旨被仰出候間銘々無疑念通用可致候

(外國ノ諸貨幣ハ日本ノ貨幣ト同種ノ同量ヲ以テ通用シ  
 日本諸貨幣ハ銅錢ヲ除ク外輸出スルヲ得並ニ外國ノ  
 金銀ハ貨幣ニ鑄ルモ鑄サルモ輸出スルヲ得並ニ外國ノ  
 金銀ハ貨幣ニ鑄ルモ鑄サルモ輸出スルヲ得並ニ外國ノ



六六五

〔布告〕壬申八月十九日 洋銀算數ノ儀是迄何弗何十何セント  
何分何釐又ハ何弗何合何夕或ハ何弗何十何錢何釐何種々  
ノ稱呼有之不都合ニ候條以來何弗何十何セントト相記シ  
其以下ハ數字ノニ相用可申事

第二款 紙幣相場

〔布告〕戊辰六月 今般金札御製造ハ天下公行產物融通ノ御趣向ニ  
有之〔中略〕下々ニ於テ取引ハ正金同様日用普通ノ貨幣ニ有  
之候處往々不心得ノ者有之御製造ノ御旨趣ニ背キ徒ニ金  
札ヲ以正金ト兩替セシメ姦商共其機ニ乘シ打賃ヲ相食リ  
候ヤニ相聞ヘ不謂事ニ候向後御取糺ノ上無相違ニ於テハ  
雙方トモ屹度御咎被仰付候條爲心得申達候事

七六五

〔改布告〕戊辰十二月四日 金札ノ儀ハ世上融通ノ爲メ御發弘ニ相成  
候處近來往々分合ヲ付致取引候者有之大ニ物價紛亂ノ基  
ヲ生シ甚以不辨ニ成行候以來時ノ相場ヲ以通用可致様御



沙汰候事

〔増〕布告〔己巳〕正月金札ノ儀ハ租稅其外諸上納正金百兩ニ付札百二十兩ノ立相場ヲ以上納被仰付下方ニ於テハ日々ノ立相場ヲ以テ取引可致處間々諸買物拂代等ニ不受取者モ有之ヤニ相聞以ノ外ノ事ニ候右様心得違ノ者ハ屹度可及沙汰候條兼テ其旨府藩縣ニ於テ遍シ可觸達者也

〔改〕布告〔己巳〕二月三日今般被仰出候通諸上納物金納ノ分總テ金札ニテ時ノ相場ヲ以可相納ニ付テハ諸國見合相場金百兩ニ付札百二十兩ヲ以當分上納御定相成候事

右ノ通東京ニ於テ被仰出候間相達候事

〔増〕布告〔己巳〕二月八日一先達テ金札相場通用被仰出候上ハ月給其外御拂物等總テ一ケ月中十日平均ノ相場ヲ以御渡方有之候右ニ付租稅上納ノ儀ハ過不及無之様時々評議ノ上可取扱旨被仰出候處相場ノ儀所々高下有之一定難致下々迷惑ノ趣相聞候ニ付更ニ左ノ通被仰出候事

一 諸上納并御拂物等當分正金百兩ニ付金札百廿兩定ノ事

一 二月五日金札分間被仰出候以前府縣并御預所有之藩



々々取納置候税金三月中ニ上納致シ候へハ分間附ケ  
候ニ不及若四月ニ至リ上納ノ向ハ假令二月前其役場  
へ納置候トモ百兩ニ付二十兩ノ分間相立可申候事  
右ノ通被仰出候間相達候事

〔増達〕月己巳四日即今内外莫大ノ御失費相重人民困窮ニ及候  
ニ付金札御施行相成一般融通爲致上下ノ疲弊御救助可  
相成御主意ニ候處近來金札格外下落人民窮迫ニ立到候  
儀ハ畢竟五官府藩縣トモ心得違ノ者拜借金月給等兩替  
屋ニ於テ正金ニ引換遣拂候ヨリ大ニ下々ノ疑惑ヲ生シ  
正金ハ日々引上ケ金札ハ日々下落シ正金金札共不融通

ヲ釀シ候次第ニテ遂ニ下々産業ヲ取失ヒ候様可立到別  
テ金札御施行ノ御主意ニモ相戻リ以ノ外ノ事ニ候就テ  
ハ五官府藩縣厚シ御主意ヲ奉戴シ總テ金札ヲ以遣拂候  
様可致以後不心得ノ所業於有之ハ屹度可被及御沙汰候  
事

〔増達〕月己巳四日金札ノ儀ハ世上融通ノ御趣意ニテ御發行相  
成下々ニ於テ通用辨利ノタメ天然相場ヲ以取引可致旨  
相達候後猶取引ノ儀ニ付心得違ノ筋無之様度々相觸レ  
候趣モ有之候處普ク御趣意ノ程相辨不申候ヤ諸品賣買  
ノ儀ニ付テハ未タ通用方差滯候向モ有之趣畢竟下々ニ



於テハ正金ヲ慕候人氣ニ成行世上通用ノ御趣意ヲ取失候ヨリ小商人トモ賣買取引等差滯難澁ノ廉モ有之趣相聞ヘ可憐事ニテ夫カ爲東京ハ勿論京都大坂其他國々融通方ニモ差響候筋ニ付以來諸色仕入賣買共金札立相場ヲ以取引ニ致シ正金ヲ以テ仕切賣捌共不致様可心掛候尤諸色並合取調聊ツ、ノ高下相立候ハ當分ノ内無餘儀筋ニ候ヘトモ萬一姦商共申合不相當ノ物價取仕組候儀相聞候節ハ夫々吟味ノ上相當ノ答可申付段心得違ヒノ儀無之様可致旨御沙汰候事

〔廢布告〕己巳四月二十九日金札御發弘ノ儀ハ先般被仰出候通り厚キ

御仁恤ノ御趣意ヲ以テ御施行ニ相成候處兵亂ノ際自然不通用ノ向モ有之普シ融通難成終ニ正金金札ノ間合相立下々商賣方致難澁一時不得止場合ヨリ相場ヲ以テ通用可致御布令有之候處今日ニ至リ日々ノ高下無際限衆庶及困難加之僻遠ノ府藩縣正金同様通用致居候場所迄モ疑惑ヲ生シ候ニ付通用年限兼テ被立置候ヘトモ今般新貨幣鑄造ノ上ハ改テ引替ノ道被相立候間自今斷然相場被廢正金同様通用可致旨被仰出候間京都東京大坂ヲ始メ僻遠ノ地ニ至迄厚シ御趣意ヲ奉戴シ普シ通用可致候萬一心得違ノ向於有之ハ嚴重ノ御處置可有之旨御沙汰候事



但本文ノ趣府藩縣共厚シ相心得御趣意貫徹致候様各支配下へ懇切ニ説諭可致候今後管轄中心得違ノ者於有之ハ畢竟其主宰ノ不行届ニ付府縣ハ官長藩々ハ領主ノ曲事タルヘキ事

〔増〕達己巳五月九日金札通用ノ儀ニ付テハ過日御布令ノ通遐邑僻陬ニ至ル迄金札正金同様通用可致ハ勿論ニ候へ共都下ヲ初遠地取引致シ候商賈等萬一心得違ノ者有之候テハ不被爲得止當人ハ勿論主宰ノ者迄嚴重可被及御沙汰候間諸藩々於テモ領内末々迄厚シ御趣意ヲ奉戴シ右様心得違ノ者無之様懇切ニ説諭致シ天下ノ御爲深ク心ヲ

用ヒ可申候爲念此旨相達候事

〔増〕達己巳五月今般金札ノ儀斷然相場廢止正金同様通用可致旨被仰出候付テハ其御趣意ヲ實地ニ貫通セシメ候儀ハ全ク府藩縣共地方官ノ任ニ有之候處御發弘以來時勢不得止ヨリトハ乍申御仕法筋屢相變シ候事ニテ當度ノ御沙汰ハ新貨幣鑄造被爲在之上ハ改テ引替ノ道被相立トノ御發弘年限中確乎不易ノ御決議ニ出候ヘトモ只御布告書ノミニテハ前日ノ蹤跡ヲ以又候一旦疑惑可致ヤニ付右萬民御仁恤ノ御趣意郡村市街役方ノ者へ懇切ニ告諭シ役方ノ者ヨリ普告諭セシメ自今更ニ疑惑ヲ不抱總



六七五

テ賣買ノ道融通致シ候様引受々々ニ於テ精々可致盡力  
此段相達候事

右ノ通東京オイテ民部官ヨリ觸達候間爲心得此段相達  
候事

〔增〕布告己巳五月二日是迄金札相場被立置候ニ付夫々引換等モ  
有之候處今般正金同様通用被仰出候上ハ金札ヲ以當時  
通用致居候正金ニ引換候儀ハ堅ク停止タルヘシ尤爲融  
通鈞錢等引換候儀ハ格別ノ事

但大札ヲ以小札ニ換或ハ小札ヲ以大札ニ換通用致シ  
候儀ハ可爲勝手事

右ノ趣堅可相守萬一心得違金札ヲ正金ニ引換候者於有  
之ハ取引人雙方トモ曲事タルヘキ事

〔布告〕八年一月十三號新紙幣製造ノ事業追々整頓候ニ付太政官  
民部省札并正金兌換証券悉皆新紙幣ヲ以交換候ニ付右三  
種ノ紙幣ハ本年五月三十一日限リ通用令停止候條各人民  
貢納金等ノ儀ハ可成丈前條三種ノ紙幣相用候様可致此旨  
布告候事

但交換手續等ハ追テ可及布告候事

七七五

〔大藏省達〕八年二月十七號太政官札并民部省札兌換証券等  
ノ儀ハ當明治八年五月三十一日限リ通用停止交換施行



ノ儀本年第三號公布相成候ニ付テハ別冊交換手續書相  
渡候條右ニ照準夫々處分可致此旨相達候事(別冊)

〔大藏省達〕乙八年三月十四日 本年當省乙第二十號ヲ以相達

候官省札証券引換手續書中第拾條貢納ノ分ト雖モ檢査  
濟ノ上ハ消印ヲ捺シ云々ト掲載有之候ニ付檢査人糊封  
人給料迄右手續書ニ照準差遣シ候儀ト相心得候向モ有  
之哉ニ候得共貢納金檢査糊封等ノ儀ハ都テ明治七年當  
省第六拾貳號改正第四條ノ通り取計押印備使ノ者而已  
ヘ交換手續書ニ照準シテ押印紙幣員額五千枚ニ付壹人  
貳拾五錢ニ上ラサル高ヲ支給シ該印用肉ノ費ハ其押印

紙幣貳千枚ニ付貳拾五錢ニ上ラサル高ヲ以處分シ貢納  
ノ分ト全交換ニ附シ候分ト區分ヲ不誤様篤ト注意可致  
此旨爲心得相達候事

〔增〕布告〔八年五月九日 本年一第三號布告太政官民部省札并

正金兌換証券ノ三紙幣本年五月三十一日限り通用令停止  
候云々但交換手續ハ追テ可及布告ト有之候處右手續書ノ  
儀ハ大藏省ヨリ各地方廳ヘ相達候條此旨爲心得更ニ布告  
候事

〔大藏省達〕乙八年五月二十日 太政官民部省札并正金兌換証  
券ノ儀本年第三號公布ノ通り當五月三十一日限通用停